

No.	登録番号	遺構名	層位	種類	器種	器高 長さ	口径 幅	底径 厚さ	重さ	備考・特記事項	年代・形式	写真 図版
19.1	E-2	SD16	1・2層	環状器	瓶	—	—	—	14.3	ロクロ	古代	
19.2	E-3			環状器	瓶	—	—	—	21.5	ロクロ 外：ヘラナデ	古代	
19.3	G-4		上歸質土器	瓶（かわらけ）	—	—	5.4	17.6	ロクロ 外：ヘラナデ？ 仕上形成痕跡あり 底：回転赤きり	中世？	12.4	
19.4	Kc-5		1層	石製品	砾石	9.9	3.1	3.1	98.2	磨り面（5面）	12.3	
19.5	B-1	SD26	排水土器	甌（お）壺	—	—	(7.2)	21.5	外：木挽文（斜行）のちナデ 内：ナデ？ 底：木壓痕、斜圧痕？	舊生	11.19	
19.6	L-17		上層	陶器	壺？	—	—	—	125.0	外：自然釉 内：押さえ板、ナデ 固れ口と外面前に砾石として再利用、磨り面（3面） 削美	12c	12.2
19.7	L-20			陶器	躰	—	—	—	60.0	ロクロ 著地不明 東面？	中世	12.4
20.1	L-18			陶器	壺	—	—	—	21.0	外：自然釉 信？	近世	
20.2	L-16			陶器	瓶躰	—	—	—	25.7	自然釉 信？	17c	12.5
20.3	L-19			陶器	躰	—	(11.2)	—	23.6	自然釉 (口縁部二重唇) 信？	17c 中～後葉	12.6
20.4	Kc-6			石製品	砾石	7.3	3.0	1.4	41.8	タール状物質付着 磨り面（4面）	12.7	
20.5	E-4	SD96	環状器	瓶	—	—	—	—	16.4	ロクロ	古代	
20.6	E-5		環状器	筒躰	—	—	(11.0)	42.7	ロクロ 外：ヘラケズリ 底：ヘラケズリ	古代	12.8	
20.7	E-6		環状器	环	—	—	(9.2)	14.2	ロクロ 底：回転ヘラ切り	古代		
20.8	Kc-7	SD115	最下層	石製品	砾石	6.7	3.7	3.4	185.0	円錐 磨り面（4面）		12.9

単位はcm・g ()の数値は後元値

第20図 溝跡出土遺物（2）

(3) 土坑

今回の調査で、23基の土坑が検出された。本報告では分層された土坑を中心に詳細に記述し、単層のものは一覧表で示した。

SK5土坑（第21図）

D9グリッドで検出された。平面形状はやや歪な円形を、断面形状はやや開いた箱形を呈する。規模は直径約135～140cm、深さ約40cmである。堆積土は7層に細分され、黒色、黒褐色、暗褐色の砂、砂質シルト、粘土質シルトで構成され、2層中に焼土粒などが混入する。SD14溝跡と小溝状遺構E群と重複しており、どの遺構よりも新しい。

遺物は1～2層中から、土製品の底部と見られる破片が出土している（第24図1・写真図版12-10）。

時期はSD14溝跡よりも新しいことから、近世以降であると考えられる。

SK17土坑（第21図）

E9グリッドで検出された。平面形状は円形を、断面形状は円錐形を呈する。規模は直径約120～130cm、深さ約50cmである。堆積土は3層に細分され、黒色、黒褐色の砂、砂質シルト、シルトで構成され、2層はⅢ層プロックが混入する人為堆積層で、3層はほぼ均質な自然堆積層であると考えられる。遺物は出土していない。

時期は遺物が出土しておらず、また他の遺構との重複関係もないことから不明である。

SK18・75土坑（第21図）

E10グリッドで検出された。SK18土坑は、平面形状が不整形を、断面形状は浅い皿形を呈する。規模は南北約35m、東西約22m、深さ約20cmで、調査区のさらに東側に広がるものと思われる。堆積土は5層に細分され、黒色、黒褐色、暗褐色、灰白色のシルト、粘土、砂で構成され、第2層は灰白色火山灰層である。SM8・9小溝状遺構と、SD11溝跡、SK75土坑と重複し、SK75よりも新しく、他の遺構よりも古い。遺物は出土していない。

時期は、第2層が灰白色火山灰の堆積層であることから平安時代以前であると考えられる。

SK75土坑は、大部分がSK18と重複しているため、平面形状は不明だが、断面形状は浅い皿型を呈するものと思われる。規模は東西約1.8m、南北約1.1m、深さ約15cmで調査区のさらに東側に広がるものと思われる。堆積土は2層に細分され、いずれも黒褐色の砂質シルトである。遺物は出土していない。

SM8小溝状遺構と、SD11溝跡、SK18土坑と重複し、他の遺構よりも古い。時期はSK18よりも古いことから平安時代以前であると考えられる。

SK56土坑（第21図）

C7グリッドで検出された。平面形状はやや歪な円形を、断面形状は開いた箱形を呈する。規模は直径約80～90cm、深さ約20cmである。堆積土は3層に細分され、黒色、黒褐色、褐色の砂層で構成され、いずれの層にもⅢ層プロックが混入する。小溝状遺構H群のSM63と重複し、これよりも新しい。

遺物は出土していない。

時期は、重複関係から近世以降であると考えられる。

SK76土坑（第22図）

E9グリッドで検出された。平面形状はやや歪な楕円形を、断面形状は浅い皿形を呈する。規模は直径約80～190cm、深さ約10cmである。堆積土は5層に細分され、灰黄褐色、黒褐色、褐色の砂層で構成され、いずれの層

にもⅢ層ブロックが混入する。小溝状遺構E群のSM6と、H群のSM7、SK78土坑と重複し、SK78よりも新しく、SM6よりも古い。遺物は出土していない。

時期は、重複関係から近世以前と考えられる。

SK79土坑（第22図）

A7・B7グリッドで検出された。平面形状はやや歪な楕円形を、断面形状はやや開いた箱形を呈する。規模は直径約140～160cm、深さ約45cmである。堆積土は4層に細分され、黒褐色、明黄褐色の砂と、粘土で構成される。第2層は灰白色火山灰層で、第3・4層はⅢ層ブロックが混入する人為堆積層であると考えられる。他の遺構との重複関係はない。遺物は出土していない。

時期は、第2層が灰白色火山灰層であることから、平安時代以前であると考えられる。

SK85土坑（第9・22図）

E9グリッドで検出された。平面形状は歪な円形を、断面形状は皿形を呈する。規模は直径約100～150cm、深さ約25cmで、調査区の南側にさらに広がる。堆積土は3層に細分され、黒褐色、暗褐色、褐色の砂および粘土質シルトで構成される。小溝状遺構群H群であるSM8と重複しており、これよりも新しい。遺物は出土していない。

時期は、小溝状遺構H群よりも新しいことから、近世以降であると考えられる。

SK92土坑（第22図）

B6グリッドで検出された。平面形状は歪な円形を、断面形状はやや開いた箱形を呈する。規模は直径約160cm、深さ約55cmである。堆積土は7層に細分され、黒褐色、暗褐色、褐色の砂で構成される。4～7層は人為堆積層であると考えられる。小溝状遺構群B群であるSM81と、P63と重複しており、P63よりも古く、SM81よりも新しい。遺物は出土していない。

時期は、小溝状遺構B群よりも新しいことから、古代以降であると考えられる。

SK93土坑（第23図）

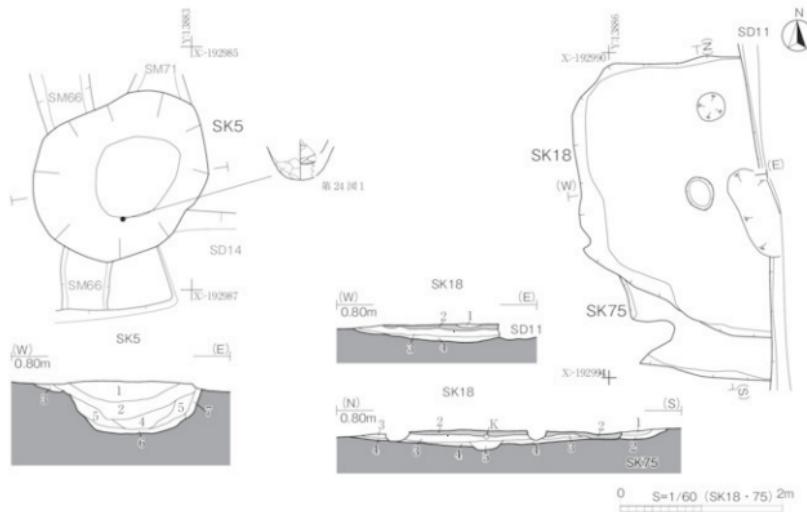
A5・A6グリッドで検出された。平面形状は歪な円形を、断面形状はやや開いた箱形を呈する。規模は直径約110～130cm、深さ約35cmである。堆積土は6層に細分され、黒色、黒褐色、にぶい黄褐色、暗褐色の砂、砂質シルト、シルト等で構成され、炭化粒などが2、3層に混入する。小溝状遺構群B群であるSM101と重複しており、これよりも新しい。遺物は出土していない。

時期は、小溝状遺構B群よりも新しいことから、古代以降であると考えられる。

SK102土坑（第23図）

A4グリッドで検出された。平面形状は歪な円形を、断面形状は皿形を呈し、底部でさらに一段落ちむ。規模は直径約180～195cm、深さ約40cmである。堆積土は5層に細分され、黒褐色、灰白色の砂、シルト、粘土質シルトで構成され、炭化粒が2層以外の各層に、特に3層、4層に比較的多くに混入する。また2層は灰白色火山灰の堆積層で、1層にもブロック状に混入する。小溝状遺構群B群であるSM108とSL1土壙、P82と重複しており、SL1とP82よりも古く、SM108よりも新しい。遺物は出土していない。

時期は、第2層が灰白色火山灰層であることから、平安時代以前であると考えられる。



SK5

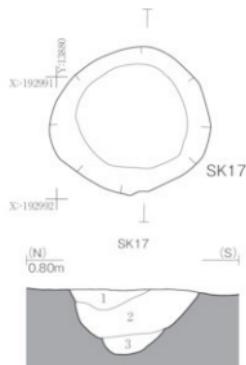
層位	色調	土質	備考・混入物
1	BOYR2-1 黒色	紗質シルト	墨層ブロック (φ1cm) 少量。
2	BOYR2-1 黑褐色	粘土質シルト	塊土粒 (φ2mm) 少量。腐食土混入。
3	BOYR4-4 褐色	紗	墨層ブロック少。
4	BOYR2-2 黑褐色	紗質シルト	(1)は均質。
5	BOYR3-1 黑褐色	紗質シルト	墨層ブロック (φ2cm)。
6	BOYR2-2 黑褐色	紗質シルト	墨層ブロック (φ2cm) 少量。
7	BOYR3-3 黑褐色	紗	墨層ブロック少。

SK18

層位	色調	土質	備考・混入物
1	BOYR3-2 黑褐色	粘土	灰白色粘土ブロック (φ1cm) 少量。
2	BOYR2-1 黑褐色	シルト	灰白色块状层。
3	BOYR2-3 黑褐色	紗	氧化铁粉 (φ2mm) 少量。
4	BOYR3-4 黑褐色	紗	墨層ブロック (φ2cm) 塔状に含む。
5	BOYR2-1 黑色	紗	氧化铁 (φ2mm) 少量。

SK75

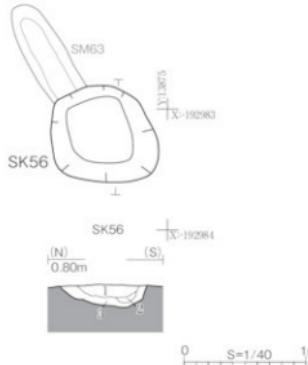
層位	色調	土質	備考・混入物
1	BOYR2-3 黑褐色	紗質シルト	均質な層。
2	BOYR2-2 黑褐色	紗質シルト	硫化鉄粒 (φ5mm) 塔状に含む。



SK17

層位	色調	土質	備考・混入物
1	BOYR2-2 黑褐色	砂	硫化鉄粒 (φ2mm) 少量。
2	BOYR2-2 黑褐色	紗質シルト	墨層ブロック (φ1~2cm) 少量。人為堆積上。
3	BOYR2-1 黑色	シルト	(1)は均質。自然堆積土。

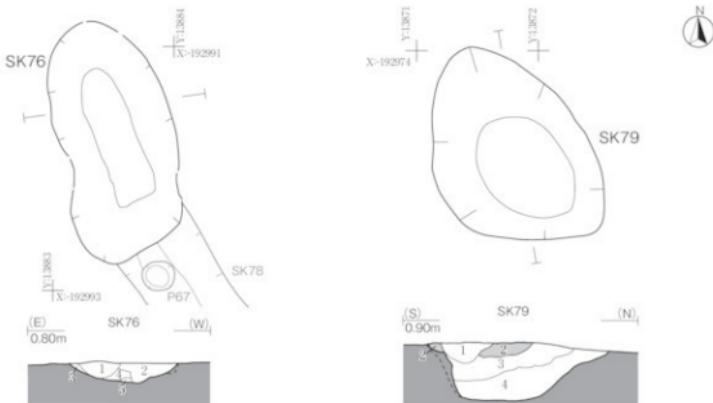
SK56



SK56

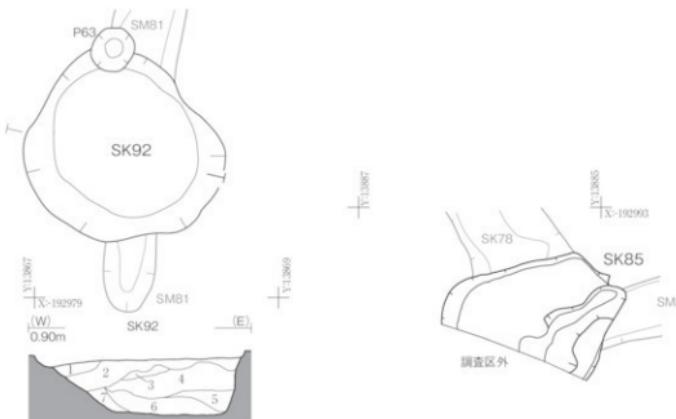
層位	色調	土質	備考・混入物
1	BOYR2-1 黒色	紗	墨層ブロック (φ2cm) 少量。
2	BOYR3-3 黑褐色	紗	墨層ブロック (φ2cm) 塔状に含む。
3	BOYR4-4 褐色	紗	墨層ブロック主体。

第21図 土坑 平・断面図 (1)



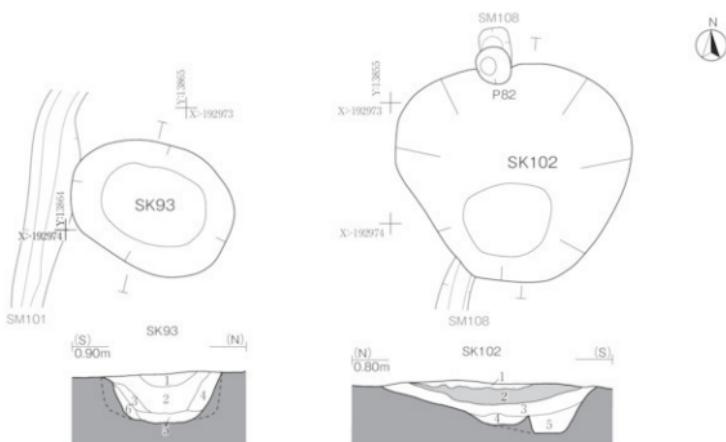
層位	色調	上質	備考・個人物
1	ROYR3-1 黒褐色	砂	墨縞ブロック (φ1cm) 下層との境に斑状に堆积。
2	ROYR3-2 黑褐色	砂	墨縞ブロック (φ2cm) 少量。
3	ROYR4-2 灰黃褐色	砂	墨縞ブロック (1cm) 剥離色砂ブロック (φ1cm) 少量。
4	ROYR4-2 黑褐色	砂	墨縞ブロック (φ1cm) 少量。
5	ROYR4-4 褐色	砂	墨縞ブロック (1cm) 剥離色砂ブロック (φ1cm) 少量。

層位	色調	上質	備考・個人物
1	DYTR2-2 黑褐色	粘土質シルト	灰白色粘土ブロック (φ1cm) 少量。
2	DYTR7-4 明黄褐色	粘土	灰白色火山灰ブロック主体。
3	DYTR2-3 黑褐色	砂	炭化粒 (φ2mm) 少量。人骨の堆积。
4	DYTR2-3 黑褐色	砂	墨縞ブロック (φ1cm) 少量。人骨の堆积。



層位	色調	上質	備考・個人物
1	ROYRC3-4 黑褐色	砂	炭化鉄粒 (φ2mm) 少量。
2	ROYRC2-3 黑褐色	粘土質シルト	墨縞ブロック (φ1~2cm) 少量。炭化粒 (φ2mm) 少量。
3	ROYRC3-3 黑褐色	砂	墨縞ブロック (φ1~3cm) 斑状に含む。
4	ROYRC3-4 黑褐色	砂	墨縞ブロック (φ1~2cm) 10R2-2黒褐色砂ブロック (φ1~2cm) 少量。人骨 (3枚)。
5	ROYR4-4 褐色	砂	墨縞ブロック主体。炭化鉄粒 (φ2mm) 少量。人骨 (2枚)。
6	ROYR2-2 黑褐色	砂	墨縞ブロック (φ1~3cm) 斑状に含む。
7	ROYR3-3 黑褐色	砂	墨縞ブロック (φ1cm) 下層との境に斑状に堆积。

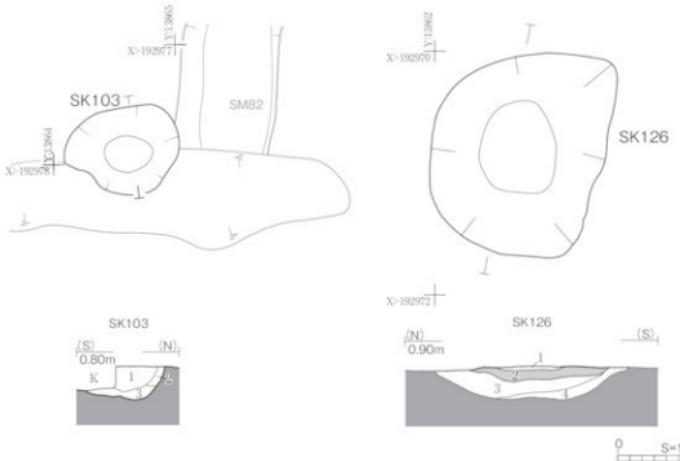
第22図 土坑 平・断面図 (2)



SK93

層位	色調	土質	備考・混入物
1	BOYR2-2 黒褐色	粘土質シルト	はく均質。
2	BOYR2-1 黒色	シルト	量層ブロック (φ1cm) 少量、炭化粒 (φ2mm) 少量。
3	BOYR2-1 黒色	砂質シルト	量層ブロック (φ1cm) 少量、炭化粒 (φ2mm) 少量。
4	BOYR2-3 赤褐色	砂	量層ブロック (φ1~3cm) 疣状に含む。
5	BOYR2-2 黒褐色	砂質シルト	量層ブロック (φ1cm) 疣状に含む。
6	BOYR2-3 黒褐色	砂	10YR2-2 黒褐色砂ブロック (φ1cm) 疣状に含む。

層位	色調	土質	備考・混入物
1	BOYR2-3 黒褐色	粘土質シルト	朱白色大塊ブロック (φ5cm) 少量、炭化粒 (φ2mm) 少量。
2	BOYR2-2 黄白色	シルト	灰白色火山灰層。
3	BOYR2-2 黑褐色	砂	炭化粒 (φ2mm) 少量。
4	BOYR2-2 黑褐色	砂	炭化粒 (φ2mm) 少量。
5	BOYR2-3 黑褐色	砂	炭化粒 (φ2mm) 少量。

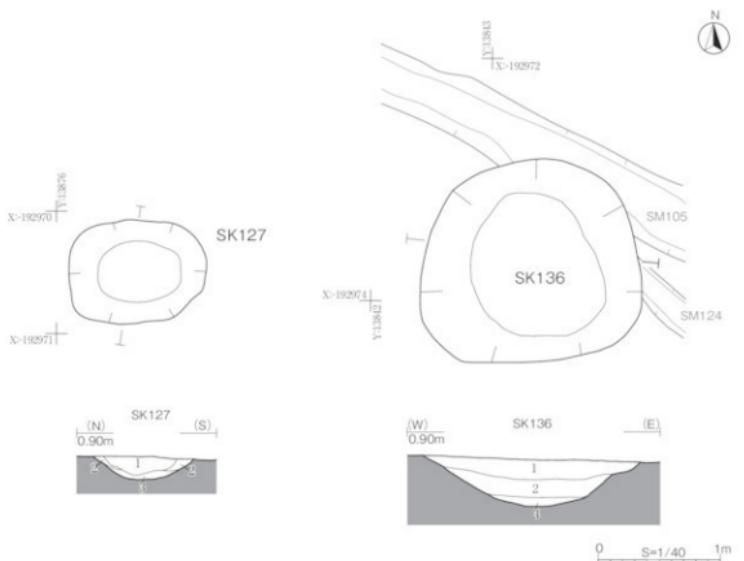


SK103

層位	色調	土質	備考・混入物
1	BOYR2-2 黒褐色	粘土質シルト	炭化粒 (φ2~5mm) 中量。
2	BOYR2-4 赤褐色	砂	量層ブロック (φ1cm) 少量。
3	BOYR2-3 赤褐色	砂	量層ブロック (φcm) 下部は灰褐色。炭化粒 (φ2mm) 少量。

層位	色調	土質	備考・混入物
1	BOYR3-1 黒褐色	粘土質シルト	炭化鉄粒 (φ2mm) 少量。
2	BOYR2-1 から赤褐色	シルト	灰白色火山灰層。
3	BOYR2-3 黑褐色	砂	炭化鉄粒 (φ2~5mm) 疣状に含む。
4	BOYR3-3 赤褐色	砂	炭化鉄粒 (φ2mm) 少量。

第23図 土坑 平・断面図 (3)



SK127

層位	色調	土質	備考・復元物
1	BOYR2-1 黒色	紳賀シルト	墨縁ブロック（φ1cm）下層に堆积。
2	BOYR3-3 嵌褐色	紳賀シルト	墨縁ブロック（φ1cm）底状に含む。
3	BOYR3-4 嵌褐色	紳賀シルト	墨縁ブロック体、黑色砂ブロック（φ1cm）底状に含む。

SK136

層位	色調	土質	備考・復元物
1	BOYR2-1 黒色	紳賀シルト	墨縁ブロック（φ1~5cm）少量、炭化物（φ2mm）少量。
2	BOYR3-2 嵌褐色	紳賀シルト	墨縁ブロック（φ3~5cm）少量。
3	BOYR17-1 黒色	紳賀シルト	墨縁ブロック。



No.	登録番号	遺構名	層位	種類	器種	器高	口径幅	底径厚さ	重さ	備考・特記事項	年代・形式	写真回数
241	P2	SK5		土製品	不明	—	—	2.0	83.4	手づくは 壁良好 帯ナメ・押さえ 底・筋ナメ	時期不明	1210

単位はcm・g () の数値は後元値

第24図 土坑 平・断面図(4)・出土遺物

SK103土坑（第23図）

B5グリッドで検出された。遺構の南側上面が搅乱により削られている。平面形状は楕円形を、断面形状は箱形を呈するものと考えられる。規模は直径約70~95cm、深さ約25cmである。堆積土は3層に細分され、黒褐色、暗褐色の砂、粘土質シルトで構成され、炭化粒が1層に比較的多く混入する。小溝状遺構B群であるSM82と重複しており、これよりも新しい。遺物は出土していない。

時期は、小溝状遺構B群よりも新しいことから、古代以降であると考えられる。

SK126土坑（第23図）

A5グリッドで検出された。平面形状は楕円形を、断面形状は皿形を呈する。規模は直径約140~165cm、深さ約25cmである。堆積土は4層に細分され、黒褐色、暗褐色の砂、粘土質シルトで構成され、2層が灰白色火山灰の堆積層で、その他の層には酸化鉄粒が混入する。SL1土器と重複しており、これよりも古い。遺物は出土していない。

時期は、第2層が灰白色火山灰層であることから、平安時代以前であると考えられる。

SK127土坑（第24図）

A8グリッドで検出された。平面形状は楕円形を、断面形状は皿形を呈する。規模は直径約85~110cm、深さ約20cmである。堆積土は3層に細分され、黒色、暗褐色の砂、砂質シルトで構成される。SL1土器と重複しており、これよりも古い。遺物は出土していない。

時期は、SL1よりも古いためから近世以前であると考えられる。

SK136土坑（第24図）

A1グリッドで検出された。平面形状はやや歪な円形を、断面形状は皿形を呈する。規模は直径約170~180cm、深さ約40cmである。堆積土は3層に細分され、黒色、黒褐色の砂、砂質シルトで構成される。SL1土器と小溝状遺構A群であるSM105、124と重複しており、SL1よりも古く、SM105、124よりも新しい。遺物は出土していない。

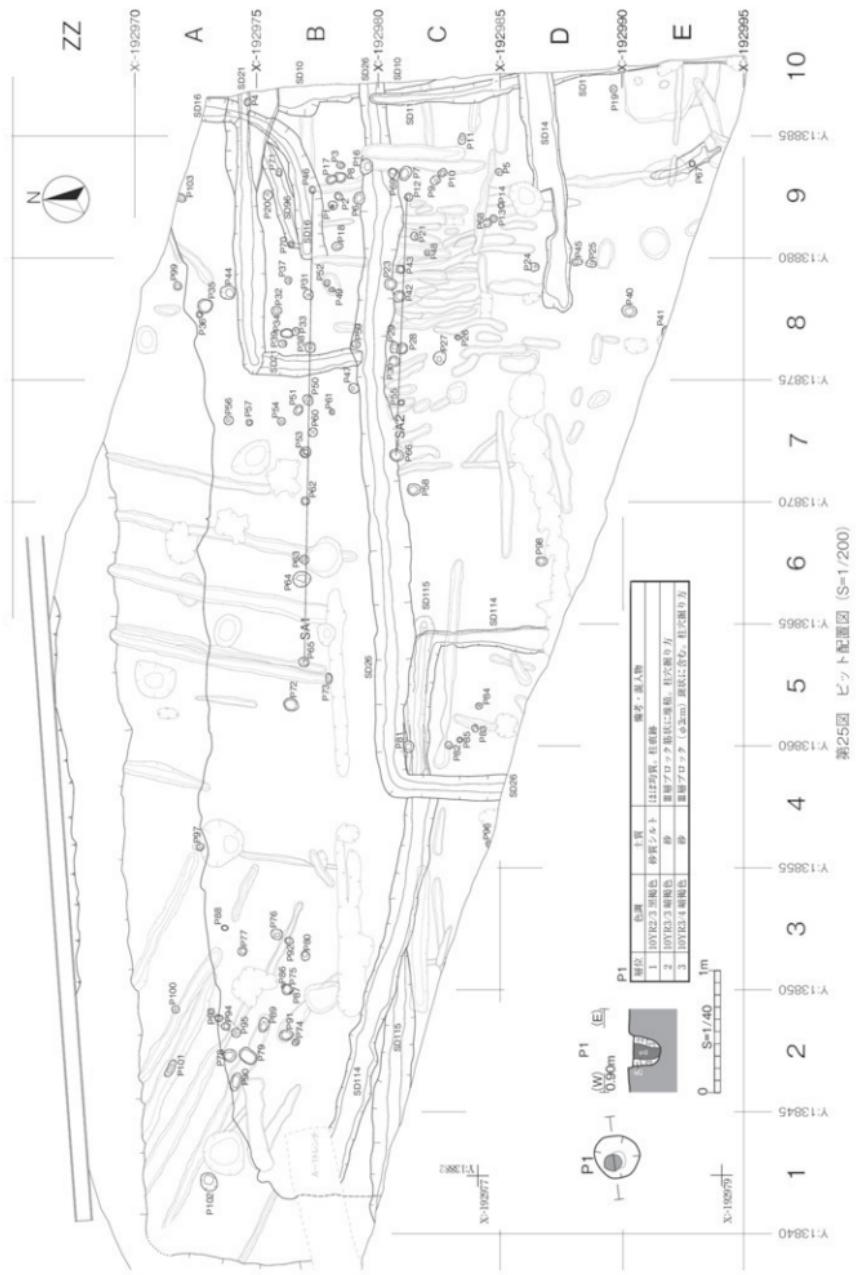
時期は、重複関係から古代以降、近世以前であると考えられる。

表2 土坑土層記表（単層）

遺構名	色調	土質	新>旧	備考・既人物	グリッド	検出長（m）	検出幅（m）	深さ（cm）
SK19 10YR2/3 黒褐色	砂			裏層ブロック（φ1~3cm）を少量含む。	D8, D9	1.20	0.55	134
SK24 10YR2/3 黒褐色	砂			裏層ブロック（φ1~3cm）を少量含む。	D7	1.00	0.55	18~196
SK25 10YR3/4 布褐色	砂			裏層ブロックが下層に斑状に堆积。	B8	0.92	0.65	15
SK35 10YR3/3 布褐色	砂	SD1D>		裏層ブロックが下層に斑状に堆积。	C8, D8	1.56	0.70	57~109
SK28 10YR3/3 布褐色	砂	SK76, KG>		裏層ブロック（φ1~3cm）が下層に斑状に堆积。	E9	1.20	0.60	112
SK39 10YR3/2 黒褐色	砂	SK55, SM51>		裏層ブロック（φ1~3cm）が下層に斑状に堆积。	D8	1.15	0.68	107
SK112 10YR3/4 布褐色	砂			砂主体、褐色砂質シルトブロック（φ2~3cm）を斑状に含む。	B2, B3	1.60	1.05	130
SK135 10YR3/4 布褐色	砂	SL1SM82>		砂主体、褐色砂質シルトブロック（φ2~4cm）を斑状に含む。	A6	1.32	0.82	117

（4）柱列跡・ビット

今回の調査では101基のビットが検出された。大部分は単層の堆積土であったが、一部のビットからは柱痕跡が確認された（P1・第25図）。また当初は単独のビットとして扱っていたが、配列などから2条の柱列跡を抽出した。抽出した柱列跡は、それぞれのビットの位置がSD26溝跡を挟んでほぼ平行に並列することから、同時期に存在していたものと考えられる。SA1柱列とSA2柱列の距離は3.7mである。



SA1柱列跡（第25図）

B5～B9グリッドで検出された柱列である。P46・31・38・50・53・62・63・65で構成される。方位はE-1°-Sである。検出長は19.3mで、柱穴間の距離はP46-31が4.3mで、P31-38-50-53が2.1m、P53-62が2.0m、P62-63が2.3m、P63-65が4.2mである。柱穴はいずれも円形で、規模は直径30～42cm、検出面からの深さは25～42cmである。またP53は掘り方の底面に段がある。

SA2柱列跡（第25図）

B7～B9グリッドで検出された柱列である。P12・42・28・55・66で構成される。方位はE-1°-Sである。検出長は10.6mで柱穴間の距離はP12-42が4.0mで、P42-28-55-66が2.1mである。柱穴はいずれも円形もしくは梢円形で、規模は直径20～55cm、検出面からの深さ12～30cmである。

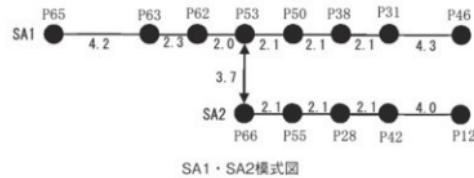


表3-1 ピット土層記表(1)

遺構名	色調	土質	参考・既人物	直径(cm)	厚さ(cm)	座標
第25回						
P1				36	35	X:-192978.1 Y:138822
P2	10YR3-3W褐色	砂	豊原ブロック(φ2cm) 疣状に含む。	31~36	22.5	X:-192978.4 Y:138825
P3	10YR2-3W褐色	砂	炭化粒(φ2cm) 微量。	28~34	23.4	X:-192978.5 Y:138838
P4	10YR2-3W褐色	砂	豊原ブロック(φ2cm) 疣状に含む。	25~31	20.5	X:-192974.6 Y:138864
P5	10YR2-3W褐色	砂質シルト	豊原ブロック(φ2cm) 疣状に含む。	30	11.9	X:-192984.9 Y:138835
P6	10YR2-3W褐色	砂質シルト	豊原ブロック(φ2cm) 疣状に含む。	43~52	22.5	X:-192979.2 Y:138824
P7	10YR3-3W褐色	砂	豊原ブロック(φ2cm) 疣状に含む。	44~61	12.2	X:-192981.1 Y:138835
P8	10YR3-3W褐色	砂	豊原ブロック(φ2cm) 疣状に含む。	41~49	13.2	X:-192978.3 Y:138833
P9	10YR2-3W褐色	砂	豊原ブロック(φ1~3cm) 疣状に含む。	33~49	30.1	X:-192982.4 Y:138832
P10	10YR4-4褐色	砂	豊原ブロック(φ2cm) 疣状に含む。	29~35	11.5	X:-192982.6 Y:138835
P11	10YR3-3W褐色	砂質シルト	豊原ブロック(φ2cm) 疣状に含む。	29~45	26.2	X:-192983.4 Y:138849
P12	10YR4-4褐色	砂	豊原ブロック(φ2cm) 疣状に含む。	34	6.2	X:-192981.2 Y:138825
P13	10YR3-4W褐色	砂質シルト	豊原ブロック(φ1~2cm) 少量。	33	15.5	X:-192984.7 Y:138816
P14	10YR3-3W褐色	砂質シルト	豊原ブロック(φ2cm) 疣状に含む。	34	12.9	X:-192985.0 Y:138821
P15				矢番		
P16	10YR2-3W褐色	砂	辺は均質。	53	29.9	X:-192979.6 Y:138838
P17	10YR3-3W褐色	砂	豊原ブロック(φ2cm) 疣状に含む。	33~46	19.2	X:-192978.3 Y:138832
P18	10YR3-2W褐色	砂質シルト	豊原ブロック(φ1~3cm) 疣状に含む。	33~45	30	X:-192978.3 Y:138805
P19	10YR2-3W褐色	砂質シルト	豊原ブロック(φ2cm) 疣状に含む。炭化鉄粒(φ2cm) 少量。	32	13.1	X:-192986.9 Y:138869
P20	10YR4-4褐色	砂	豊原ブロック主体。	42	22.1	X:-192975.5 Y:138826
P21	10YR2-3W褐色	砂	辺は均質。	29~34	12.9	X:-192981.5 Y:138809
P22						
P23	10YR3-4W褐色	砂	豊原ブロック(φ1~3cm) 疣状に含む。	50	12.9	X:-192980.5 Y:138789
P24	10YR3-3W褐色	砂	豊原ブロック(φ1~3cm) 疣状に含む。	35	28.1	X:-192986.4 Y:138796
P25	10YR3-4W褐色	砂	豊原ブロック(φ1~3cm) 疣状に含む。	29~44	12.2	X:-192988.7 Y:138798
P26	10YR3-3W褐色	砂	豊原ブロック(φ2cm) 疣状に含む。	24	8.9	X:-192983.3 Y:138767
P27	10YR2-3W褐色	砂	豊原ブロック(φ1~2cm) 少量。	50~55	25.7	X:-192982.5 Y:138759
P28	10YR2-2W褐色	砂	豊原ブロック(φ1~2cm) 少量。	39~48	27.1	X:-192981.0 Y:138763
P29	10YR2-3W褐色	砂	豊原ブロック(φ1~2cm) 少量。	34~46	27.4	X:-192980.7 Y:138763
P30	10YR3-4W褐色	砂	豊原ブロック(φ1~3cm) 疣状に含む。	46	8.2	X:-192980.6 Y:138758
P31	10YR2-3W褐色	砂	豊原ブロック(φ1~2cm) 少量。	40	25.6	X:-192977.1 Y:138785
P32	10YR2-3W褐色	砂	豊原ブロック(φ1~2cm) 少量。	35~42	12.8	X:-192975.8 Y:138779
P33	10YR2-3W褐色	砂	豊原ブロック(φ1~2cm) 少量。	32	29.8	X:-192976.6 Y:138770
P34	10YR3-4W褐色	砂	豊原ブロック(φ1~2cm) 少量。	36~50	14.8	X:-192976.3 Y:138769
P35	10YR2-3W褐色	砂	豊原ブロック(φ1~5cm) 少量。	58~62	15.5	X:-192972.9 Y:138780
P36	10YR3-4W褐色	砂	豊原ブロック(φ1~2cm) 少量。	27	19.5	X:-192972.7 Y:138777
P37	10YR2-3W褐色	砂	豊原ブロック(φ1~2cm) 少量。	30	21.7	X:-192976.3 Y:138791
P38	10YR2-3W褐色	砂	豊原ブロック(φ1~3cm) 少量。赤色砂ブロック(φ3cm) 少量。	43	31.1	X:-192977.2 Y:138764
P39	10YR2-3W褐色	砂	豊原ブロック(φ1~2cm) 少量。	30~35	32.4	X:-192976.1 Y:138765
P40	10YR2-2W褐色	シルト	豊原ブロック(φ1~2cm) 少量。	47~60	36.9	X:-192990.5 Y:138778

表3-2 ピット土層計記表(2)

地名	色調	土質	備考・斑入り	直径(cm)	深さ(cm)	形態
P41	10YR3-2.5赤褐色	砂	豊原ブロック(φ1~2cm) 少量。	55	18.5	X : -1929917 Y : 13877.0
P42	10YR3-2赤褐色	砂	豊原ブロック(φ1~5cm) 少量。	47	30.9	X : -1929809 Y : 13878.4
P43	10YR3-4褐色	砂	豊原ブロック(φ1~2cm) 少量。	35	35	X : -1929809 Y : 13879.5
P44	10YR3-3褐色	砂質シルト	豊原ブロック(φ1~2cm) 少量。	55~60	21.8	X : -1929738 Y : 13878.6
P45	10YR2-3.5褐色	砂	豊原ブロック(φ1~2cm) 少量。	28~43	15.7	X : -1929883 Y : 13879.8
P46	10YR3-4赤褐色	砂	豊原ブロック(φ1~2cm) 少量。	25~30	38.5	X : -192977.5 Y : 13882.8
P47	10YR3-4赤褐色	砂	豊原ブロック(φ1~2cm) 少量。	43	34	X : -192979.0 Y : 13874.6
P48	10YR2-2.5赤褐色	砂	豊原ブロック(φ1~2cm) 少量。	23	38.4	X : -192982.0 Y : 13880.2
P49	10YR2-3赤褐色	砂	豊原ブロック(φ1cm) 斑状に含む。	19~25	31.1	X : -192978.3 Y : 13878.7
P50	10YR2-2.5赤褐色	砂	豊原ブロック(φ1cm) 斑状に含む。	39~46	39.8	X : -192977.1 Y : 13874.2
P51	10YR2-3赤褐色	砂	はげ均質。	35~44	42.8	X : -192976.7 Y : 13873.8
P52	10YR2-3.5赤褐色	砂	豊原ブロック(φ1~2cm) 少量。	26~30	34.4	X : -192977.9 Y : 13878.9
P53	10YR2-3赤褐色	砂	豊原ブロック(φ1~3cm) 斑状に下層に粗粒。	46	37.8	X : -192977.0 Y : 13872.0
P54	10YR3-3褐色	砂	豊原ブロック(φ1cm) 斑状に含む。	34	26.1	X : -192976.0 Y : 13873.3
P55	10YR3-3褐色	砂	豊原ブロック(φ1cm) 斑状に含む。	21~26	29.3	X : -192980.9 Y : 13874.1
P56	10YR3-3褐色	砂	豊原ブロック(φ1cm) 斑状に含む。	38	24.6	X : -192973.9 Y : 13873.4
P57	10YR3-3褐色	砂	はげ均質。	26	27.4	X : -192974.7 Y : 13873.3
P58	10YR2-3.5褐色	砂	豊原ブロック(φ1cm) 斑状に含む。	47~53	12.7	X : -192981.4 Y : 13878.5
P59	10YR2-2.5赤褐色	砂	豊原ブロック(φ1~3cm) 斑状にY層に粗粒。	30~36	28.1	X : -192979.1 Y : 13876.5
P60	10YR3-2.5赤褐色	砂	豊原ブロック(φ1cm) 斑状に含む。	37	33.1	X : -192977.5 Y : 13872.9
P61	10YR3-3褐色	砂	豊原ブロック(φ1cm) 斑状に含む。	22	24.6	X : -192978.1 Y : 13873.7
P62	10YR3-2赤褐色	砂	豊原ブロック(φ1cm) 斑状に含む。	33	42.7	X : -192977.0 Y : 13878.0
P63	10YR2-3褐色	砂	豊原ブロック(φ1cm) 斑状に含む。	38	33	X : -192977.0 Y : 13867.6
P64	10YR2-3赤褐色	砂	豊原ブロック(φ1~2cm) 少量。	63~76	34.8	X : -192976.8 Y : 13866.8
P65	10YR3-2.5褐色	砂	豊原ブロック(φ1~3cm) 斑状に下層に粗粒。	37~42	17.2	X : -192977.0 Y : 13863.4
P66	10YR3-2.5~3褐色	砂	豊原ブロック(φ1cm) 少量。	48~56	21.6	X : -192980.7 Y : 13871.9
P67	10YR3-2.5赤褐色	砂	豊原ブロック(φ1cm) 粗粒。	26	28	X : -192992.9 Y : 13883.9
P68	10YR2-2赤褐色	砂	豊原ブロック(φ1cm) 少量。	35	13.4	X : -192984.5 Y : 13881.5
P69	10YR2-2赤褐色	砂	豊原ブロック(φ1cm) 少量。	33~42	38	X : -192986.0 Y : 13883.5
P70	10YR3-3褐色	砂	豊原ブロック(φ1cm) 少量。	21~26	26.2	X : -192976.4 Y : 13886.6
P71	10YR2-2赤褐色	砂	はげ均質。	24~32	42.1	X : -192976.0 Y : 13883.5
P72	10YR2-2赤褐色	砂	豊原ブロック(φ1cm) 斑状に粗粒。10YR2-2.5赤褐色砂ブロック(φ1cm) 粗粒に含む。	32~60	11.8	X : -192976.4 Y : 13861.7
P73	第四系			27~42	47.2	X : -192978.0 Y : 13862.8
P74	10YR2-3赤褐色	砂	豊原ブロック少量。	27~32	37.6	X : -192976.6 Y : 13847.9
P75	10YR3-3褐色	砂	豊原ブロック主体。10YR2-2.5赤褐色砂ブロック(φ1cm) 少量。	40	30.3	X : -192976.3 Y : 13863.0
P76	10YR3-3褐色	砂	豊原ブロック(φ1cm) 斑状に粗粒。10YR2-2.5赤褐色砂ブロック(φ1cm) 粗粒に含む。	40~49	19	X : -192975.8 Y : 13852.3
P77	10YR2-2赤褐色	砂	豊原ブロック(φ1cm) 少量。	37	37	X : -192974.5 Y : 13851.6
P78	10YR3-3褐色	砂	豊原ブロック主体。10YR2-2.5赤褐色砂ブロック(φ1cm) 少量。	51	18.6	X : -192973.9 Y : 13847.3
P79	10YR3-3褐色	砂	豊原ブロック(φ1cm) 粗粒に下層に粗粒。10YR2-2.5赤褐色砂ブロック(φ1cm) 斑状に含む。	55~75	15.2	X : -192974.7 Y : 13867.3
P80	10YR3-3褐色	砂	豊原ブロック(φ1cm) 斑状に粗粒。10YR2-2.5赤褐色砂ブロック(φ1cm) 粗粒に含む。	35~40	36.6	X : -192977.0 Y : 13851.4
P81	10YR2-3赤褐色	粘土質シルト	はげ均質。	38~45	21.8	X : -192981.3 Y : 13860.0
P82	10YR2-2.5赤褐色	砂	豊原ブロック(φ2cm) 少量。炭化粒(φ2mm) 少量。	25~30	15.5	X : -192982.9 Y : 13860.0
P83	10YR3-3褐色	砂	豊原ブロック(φ1~2cm) 斑状に下層に粗粒。	25~31	22	X : -192984.0 Y : 13860.7
P84	10YR3-4赤褐色	砂	豊原ブロック少量。	28	12	X : -192984.3 Y : 13861.6
P85	10YR4-4褐色	砂	豊原ブロック主体。	24	14.5	X : -192983.4 Y : 13860.2
P86	10YR3-3褐色	砂	豊原ブロック(φ1cm) 斑状に下層に粗粒。10YR2-2.5赤褐色砂ブロック(φ1cm) 粗粒に含む。	25	15.9	X : -192976.1 Y : 13850.1
P87	10YR2-3赤褐色	砂	豊原ブロック(φ1~2cm) 斑状に含む。	16~21	24.7	X : -192976.4 Y : 13850.0
P88	10YR2-3赤褐色	砂	豊原ブロック(φ1~3cm) 斑状に含む。	21~28	40.5	X : -192973.7 Y : 13852.5
P89	10YR2-1.5赤	砂	豊原ブロック(φ1cm) 下層に少量。	39~58	32.1	X : -192975.3 Y : 13848.6
P90	10YR2-2.5赤褐色	砂	豊原ブロック(φ1cm) 下層に少量。	40~75	37.7	X : -192974.2 Y : 13846.2
P91	10YR2-2.5赤褐色	砂	はげ均質。	43~56	34	X : -192976.2 Y : 13848.1
P92	10YR2-2.5赤褐色	砂	豊原ブロック(φ1cm) 少量。	28~35	35.8	X : -192976.3 Y : 13862.0
P93	10YR2-1黑色	砂	はげ均質。	26~32	27.3	X : -192973.4 Y : 13848.8
P94	10YR2-1黑色	砂	はげ均質。	33	25.8	X : -192973.8 Y : 13848.5
P95	10YR2-2.5赤褐色	砂	はげ均質。	36	26.7	X : -192974.2 Y : 13848.2
P96	10YR3-3褐色	砂	豊原ブロック(φ1cm) 斑状に含む。	17~28	28.7	X : -192984.6 Y : 13856.0
P97	10YR2-3赤褐色	砂	豊原ブロック(φ1cm) 少量。	32	31.1	X : -192972.7 Y : 13855.8
P98	10YR2-2.5赤褐色	砂	豊原ブロック(φ1cm) 少量。	38~46	13.8	X : -192986.7 Y : 13867.6
P99	10YR3-2.5~3褐色	砂	豊原ブロック(φ1cm) 斑状に含む。	35	29.6	X : -192973.8 Y : 13878.8
P100	10YR2-3赤褐色	砂	はげ均質。	31	29.4	X : -192971.7 Y : 13849.2
P101	10YR2-3赤褐色	砂	豊原ブロック(φ0cm) 下層に斑状に含む。	29~76	25.6	X : -192971.5 Y : 13846.8
P102	10YR2-3赤褐色	砂	豊原ブロック(φ1cm) 下層に斑状に含む。	66~78	30.2	X : -192973.0 Y : 13842.2
P103	10YR2-2赤褐色	砂	はげ均質。	33	30.6	X : -192971.9 Y : 13882.5

(5) 小溝状遺構群 (第26・27図)

今回の調査で検出された小溝状遺構は、合計で99条である。今回見つかった小溝状遺構群は、方位や他の遺構との重複関係などからA～H群の8群に大別された。遺構の時期は古代から、近世まで多岐にわたり、また時期により形状や群内での密集度も異なる。いずれの小溝状遺構群も畑耕作に伴うものであると考えられる。

小溝状遺構A群

ZZ3・A0～A4・B0～B4グリッドで検出された北西～南東方向の小溝状遺構である。SM105・106・109・110・113・124・131～133・138の10条で構成される。方位はW23～44°-Nで、上端幅は22～81cm、遺構検出面からの深さは1～21cmである。堆積土は黒褐色、暗褐色、褐色の砂で、Ⅲ層ブロックを斑状に含む。SL1土壌、SK112・136土坑、小溝状遺構D群と重複しており、いずれの遺構よりも古い。またA群の中でも重複しているものもあり、時期はさらに細分されるものと思われる。特にSM124はⅢa層上面では確認できず、Ⅲb層を若干掘り下げた段階で検出されたことから、Ⅲa層に伴うものである可能性がある。

遺物は出土していない。重複関係から平安時代以前の畑耕作痕であると考えられる。

表4 小溝状遺構A群 土層註記表

遺構名	色調	土質	範囲	備考・混入物	剖	角度	グリッド	検出長 (m)	検出幅 (m)	深さ (cm)
SM105	10YR2/3 黒褐色	砂	SL1>SK136> SM105	Ⅲ層ブロック（φ2～3cm）を斑状に含む。	A	W-28° - N	A1～A2～B2	(9.35)	0.32～0.67	7.4～14.9
SM106	10YR4/4 褐色	砂		Ⅲ層ブロック（φ1～2cm）を斑状に含む。	A	W-23° - N	A3～A4～B3 ～B4	2.50	0.26～0.38	29～65
SM109	10YR2/3 黒褐色	砂	SL1>SM119> SM109	Ⅲ層ブロック（φ1cm）を斑状に含む。 #=SD34. 沈没#SD134優先。	A	W-29° - N	A1～A2～B3	(13.57)	0.20～0.81	10.9～13.8
SM110	10YR4/4 褐褐色	砂	SD107>SM110	Ⅲ層ブロック（φ1～2cm）を少量化含む。	A	W-30° - N	B1, B2	(2.97)	0.22～0.55	0.5～10.5
SM113	10YR4/4 褐色	砂	SK112>SM113	Ⅲ層ブロック（φ1～2cm）を少量化含む。	A	W-44° - N	B2, B3	(3.50)	0.30～0.76	9.5～16.1
SM124	10YR3/4 褐褐色	砂	SL1>SD107> SM124	Ⅲ層ブロック（φ1cm）を下層に少量化含む。	A	W-41° - N	A1, A2	(0.79)	0.25～0.29	8.6～12.0
SM131	10YR2/3 黒褐色	砂	SL1>SM131	Ⅲ層ブロック（φ1～3cm）を斑状に含む。	A	W-25° - N	A1～A2～A3	(7.50)	0.36～0.73	7.6～8.4
SM132	10YR2/3 黒褐色	砂	SL1>SM132	Ⅲ層ブロック（φ1cm）を下層に少量化含む。	A	W-33° - N	A2, A3	(6.25)	0.40～0.57	3.4～5.7
SM133	10YR2/3 黒褐色	砂	SL1>SM133	Ⅲ層ブロック（φ1cm）を斑状に含む。	A	W-26° - N	A2～ZZ3～A3 ～A4	(6.00)	0.39～0.63	5.0～21.5
SM138	10YR2/3 黒褐色	砂	SL1>SM138	ほぼ均質。	A	E-27° - S	A0～B0～A1 ～B1	(3.08)	0.22～0.30	8.0

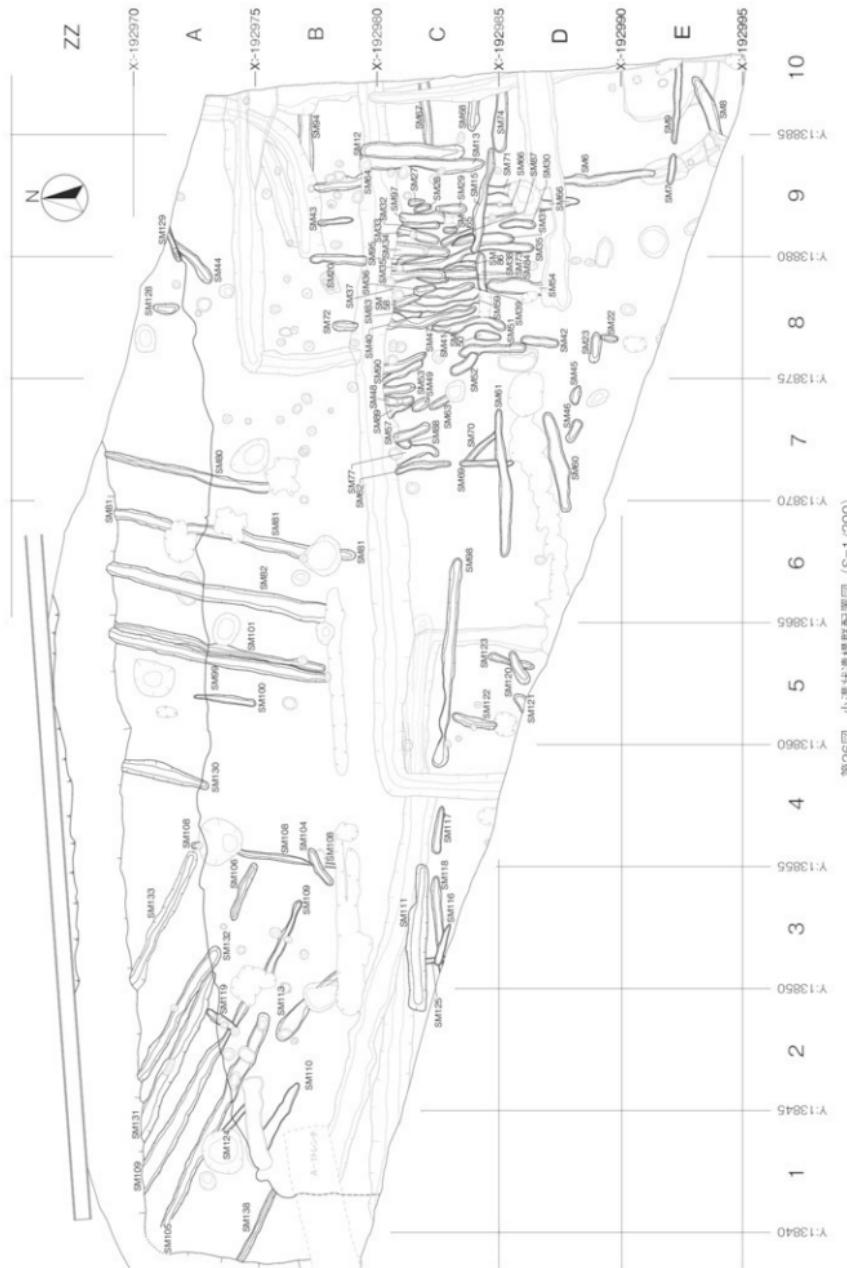
小溝状遺構B群

ZZ4～7・A4～8・B5～7グリッドで検出された北東～南西方向の小溝状遺構である。SM80～82・99～101・108・128・130の9条で構成される。方位はN0～20°-Eで、上端幅は27～71cm、遺構検出面からの深さは1～37cmである。堆積土は黒褐色、暗褐色の砂で、Ⅲ層ブロックを斑状に含む。SL1土壌、SK92、93、102、135土坑と重複しており、SK135より新しく、他の遺構よりも古い。またB群の中でも重複しあっているものもあり時期はさらに細分されるものと考えられる。

遺物は出土していない。灰白色火山灰が堆積しているSK102よりも古く、またその他の遺構との重複関係から平安時代以前の畑耕作痕であると考えられる。

表5-1 小溝状遺構B群 土層註記表(1)

遺構名	色調	土質	範囲	備考・混入物	剖	角度	グリッド	検出長 (m)	検出幅 (m)	深さ (cm)
SM80	10YR3/3 褐褐色	砂	SL1>SM80	Ⅲ層ブロック（φ1cm）が下層に斑状に堆積。	B	N-12° - E	ZZ7～A7～B7	(6.88)	0.27～0.43	4.1～11.3
SM81	10YR3/3 褐褐色	砂	SL1>SK92>SM81	Ⅲ層ブロック（φ1cm）が下層に斑状に堆積。	B	N-20° - E	ZZ6～A6～B6	(10.04)	0.41～0.58	3.6～18.6



第26图 小溝状邊構群配置図 (S=1/200)

表5-2 小溝状遺構B群 土層註記表(2)

遺構名	色調	土質	新>旧	発考・既人物	目	角度	グリッド	検出長 (m)	検出幅 (m)	深さ (cm)
SM82	10YR3/3 姫褐色	砂	SL1>SK102>SM82	Ⅲ層ブロック(φ1cm)が下層に斑状に堆積。	B	N-12°-E	ZZ6~A6~B6	0.15	0.52~0.81	76~22.0
SM99	10YR2/3 黒褐色	砂	SL1>SM99	Ⅲ層ブロック(φ1cm)が下層に斑状に堆積。	B	N-12°-E	ZZ5~A5~B5	0.05	0.35~0.60	44~21.0
SM100	10YR2/3 黒褐色	砂	SL1>SM100	Ⅲ層ブロック(φ1cm)が下層に斑状に堆積。	B	N-7°-E	A5, B5	0.07	0.17~0.34	40~10.6
SM101	10YR3/4 姫褐色	砂	SL1>SM99 SK93>SM101	Ⅲ層ブロック(φ1cm)が下層に斑状に堆積。	B	N-12°-E	ZZ5~A5~B5	0.80	0.22~0.42	77~14.7
SM108	10YR4/4 黄褐色	砂	SK102, SM108> SM108	Ⅲ層ブロック(φ2~3cm)を斑状に含む。	B	N-9°-E	A4~B3~B4	0.05	0.09~0.28	36~6.7
SM128	10YR2/3 黒褐色	砂	SL1>SM128	Ⅲ層ブロック(φ1~3cm)を斑状に含む。	B	N-0°-E	A8	1.06	0.31~0.42	28.8~32.0
SM130	10YR2/3 黒褐色	砂	SL1>SM130	Ⅲ層ブロック(φ1~3cm)を斑状に含む。	B	N-15°-E	ZZ4, A4	0.64	0.33~0.73	14~13.0

小溝状遺構C群

C3・C5・D5グリッドで検出された北東-南西方向の小溝状遺構である。SM121~123・125の4条で構成される。方位はN-44°-E-N-9°-Wで、上端幅は20~49cm、遺構検出面からの深さは6~20cmである。堆積土は暗褐色の砂で、Ⅲ層ブロックを含む。小溝状遺構D群とH群と重複しており、これらよりも古い。

遺物は出土していない。B群と方位が近いことから、その延長である可能性がある。他の遺構との重複関係から平安時代以前の畑耕作痕であると考えられる。

表6 小溝状遺構C群 土層註記表

遺構名	色調	土質	新>旧	発考・既人物	目	角度	グリッド	検出長 (m)	検出幅 (m)	深さ (cm)
SM121	10YR3/3 姫褐色	砂		Ⅲ層ブロック(φ1cm)を下層に少量含む。	C	N-44°-E	D5	0.54	0.38~0.49	65~8.2
SM122	10YR3/3 姫褐色	砂		Ⅲ層ブロック(φ1~3cm)を斑状に含む。	C	N-15°-E	C5	1.83	0.33~0.43	72~20.8
SM123	10YR3/3 姫褐色	砂	SM120>SM123	Ⅲ層ブロック(φ1~3cm)を斑状に含む。	C	N-15°-E	C5, D5	1.92	0.20~0.33	—
SM125	10YR3/3 姫褐色	砂	SM111, 116> SM118>SM125	Ⅲ層ブロック(φ1~3cm)を斑状に含む。	C	N-9°-W	C3	0.80	0.25	—

小溝状遺構D群

A2・A8~9・B3~4・D5グリッドで検出された北東-南西方向の小溝状遺構である。SM44・104・119・120・129の5条で構成される。方位はN-45~70°-Eで、上端幅は20~50cm、遺構検出面からの深さは2~30cmである。堆積土は黒褐色、暗褐色、にぶい黄褐色の砂で、Ⅲ層ブロックを斑状に含む。SL1上層、小溝状遺構A、B、C群と重複しており、小溝状遺構群より新しく、SL1よりも古い。またD群の中でも重複しあっているものもあり時期はさらに細分されるものと考えられる。

遺物はSM120から須恵器の环の底部が出土している(第28図1)。底部の切り離し調整が回転ヘラ切りであることから、8世紀代であると考えられる。

出土遺物と他の遺構との重複関係から、古代から近世以前にかけての畑耕作痕であると考えられる。

表7 小溝状遺構D群 土層註記表

遺構名	色調	土質	新>旧	発考・既人物	目	角度	グリッド	検出長 (m)	検出幅 (m)	深さ (cm)
SM44	10YR3/4 姫褐色	砂	SL1>SM129> SM14	Ⅲ層ブロック(φ1~2cm)を斑状に含む。	D	N-45°-E	A8, A9	2.05	0.30~0.50	10.8~19.0
SM104	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂		Ⅲ層ブロック(φ1~2cm)を斑状に含む。	D	E-30°-N	B3, B4	1.74	0.31~0.38	21~30.5
SM119	10YR3/3 姫褐色	砂		Ⅲ層ブロック(φ1cm)を下層に少量含む。	D	N-30°-E	A2	1.17	0.3~0.43	46~9.8
SM120	10YR2/3 黒褐色	砂		Ⅲ層ブロック(φ1cm)を下層に少量含む。	D	E-25°-N	D5	1.45	0.34~0.50	57~9.4
SM129	10YR2/3 黒褐色	砂	SL1>SM129	Ⅲ層ブロック(φ1~3cm)を斑状に含む。	D	E-20°-N	A8, A9	1.25	0.20~0.27	52~10.0

小溝状遺構E群

B8~9・C7~9・D8~9グリッドで検出された北西-南東方向の小溝状遺構である。SM6・20・22・27~37・39・43・47~54・57~59・62~66・69~73・77・83・84・86~90・95・97の50条で構成される。方位はN-6°-E-N-42°-Wで、蛇行するものもある。上端幅は10~50cm、遺構検出面からの深さは1~22cmである。堆積土は暗褐色の砂が主体的で、他には黒褐色、褐色の砂で、Ⅲ層ブロックを斑状に含むものが多い。

SD16、26溝跡と、SK76土坑、小溝状遺構H群と重複しており、SD16とSK76より新しく、他の遺構よりも古い。またE群の中でも複雑に重複しているものもあり、時期はさらに細分されるものと考えられる。

遺物は出土していない。他の遺構との重複関係から、近世以前の畠耕作痕であると考えられる。

表8-1 小溝状遺構E群 土層記録表(1)

遺構名	色調	土質	新>旧	備考・混入物	層	角度	グリッド	検出長 (m)	検出幅 (m)	深さ (cm)
SM6 10YR2-2	黒褐色	粘土質シルト	SD14>SM6	Ⅲ層ブロック(φ1~3cm)を少量含む。	E	N=5°-W	D9, E9	(3.76)	0.27~0.50	05~13.8
SM20 10YR2-3	黒褐色	砂質シルト	SD26>SM20	Ⅲ層ブロック(φ1~3cm)を少量含む。	E	N=3°-E	D8, E9	2.28	0.28~0.38	34~15.8
SM22 10YR3-4	褐褐色	砂		Ⅲ層ブロック(φ1~3cm)を少量含む。	E	N=8°-E	D8	0.71	0.21~0.30	12.8
SM27 10YR2-3	黒褐色	砂		Ⅲ層ブロック(φ1~2cm)が下層に斑状に堆積。	E	N=7°-W	C9	0.67	0.15~0.29	64~9.4
SM28 10YR2-3	黒褐色	砂		Ⅲ層ブロック(φ1~2cm)が下層に斑状に堆積。	E	N=13°-W	C9	0.72	0.28	6.2
SM29 10YR2-3	黒褐色	砂		Ⅲ層ブロック(φ1~2cm)が下層に斑状に堆積。	E	N=0°-E	C9	1.28	0.25~0.42	56~9.0
SM30 10YR4-4	褐色	砂		Ⅲ層ブロック1体。	E	N=2°-W	D9	1.50	0.28~0.39	24~7.1
SM31 10YR2-3	黒褐色	砂	SM15>SM31	Ⅲ層ブロック(φ1~3cm)が下層に斑状に堆積。	E	N=6°-W	C9, D9	2.56	0.33~0.50	49~10.5
SM32 10YR2-3	黒褐色	砂	SD26>SM32>SM2	Ⅲ層ブロック(φ1~2cm)が下層に斑状に堆積。	E	N=1°-E	C9	(1.54)	0.25~0.30	10.9
SM33 10YR2-3	黒褐色	砂	SD26>SM33	Ⅲ層ブロック(φ1~3cm)が下層に斑状に堆積。	E	N=15°-E	C9	(1.76)	0.32~0.41	10.5~18.6
SM34 10YR2-3	黒褐色	砂	SD26>SM34>SM3	Ⅲ層ブロック(φ1~3cm)が下層に斑状に堆積。	E	N=5°-E	C8, C9	(2.47)	0.35~(0.87)	44~11.0
SM35 10YR2-3	黒褐色	砂	SM15, SD26>SM35>SM31, 36>SM35	Ⅲ層ブロック(φ1~2cm)を少量含む。	E	N=8°-W	C8, C9, D9	(5.97)	0.27~0.40	36~12.1
SM36 10YR2-3	黒褐色	砂	SD26>SM36	Ⅲ層ブロック(φ1~3cm)が下層に斑状に堆積。	E	N=0°-E	C8	(2.24)	0.30~0.48	43~8.6
SM37 10YR3-2	黒褐色	砂		Ⅲ層ブロック(φ1~2cm)を少量含む。	E	N=5°-W	C8	0.92	0.30~0.41	9.1
SM39 10YR3-2	黒褐色	砂	SM37>SM39	Ⅲ層ブロック(φ1~2cm)を少量含む。	E	N=9°-W	C8	(1.95)	0.30~0.44	42~9.3
SM40 10YR3-4	褐褐色	砂	SD26>SM40	Ⅲ層ブロック(φ1~3cm)が下層に斑状に堆積。	E	N=10°-W	C8	(3.64)	0.23~0.45	09~11.9
SM41 10YR4-4	褐色	砂		Ⅲ層ブロック1体。	E	N=3°-W	C8, D8	3.01	0.23~0.42	35~7.9
SM42 10YR4-4	褐色	砂		Ⅲ層ブロック1体。	E	N=5°-E	D8	1.56	0.35~0.40	55~6.4
SM43 10YR3-3	褐褐色	砂		Ⅲ層ブロック(φ1~2cm)を少量含む。	E	N=4°-W	E9	1.46	0.18~0.25	117~14.9
SM47 10YR3-4	褐褐色	砂	SD26>SM47	Ⅲ層ブロック(φ1~3cm)が下層に斑状に堆積。	E	N=21°-W	C8	(1.87)	0.29~0.42	51~9.0
SM48 10YR3-4	褐褐色	砂	SD26>SM48	Ⅲ層ブロック(φ1~3cm)が下層に斑状に堆積。	E	N=1°-W	C7	(1.21)	0.30~0.38	39~11.5
SM49 10YR3-3	褐褐色	砂		Ⅲ層ブロック(φ1~3cm)が下層に斑状に堆積。	E	N=35°-W	C7	0.83	0.44	81~9.6
SM50 10YR3-3	褐褐色	砂		Ⅲ層ブロック(φ1~3cm)が下層に斑状に堆積。	E	N=3°-E	C8, D8	1.08	0.31~0.41	62~7.6
SM51 10YR3-4	褐褐色	砂	SM32>SM51	Ⅲ層ブロック(φ1~3cm)が下層に斑状に堆積。	E	N=5°-W	C8, D8	2.77	0.29~0.44	67~13.0
SM52 10YR3-4	褐褐色	砂		Ⅲ層ブロック(φ1~3cm)が下層に斑状に堆積。	E	N=41°-W	C8	1.34	0.44	80~9.7
SM53 10YR3-4	褐褐色	砂	SD26>SM53	Ⅲ層ブロック(φ1~2cm)を少量含む。	E	N=7°-W	C7	(1.31)	0.3~0.38	79~11.3
SM54 10YR3-4	褐褐色	砂	SD14>SM54	Ⅲ層ブロック(φ1~2cm)を少量含む。	E	N=2°-E	C8, D8	(2.27)	0.51~0.65	65~9.4
SM57 10YR3-3	褐褐色	砂	SD26>SM57	Ⅲ層ブロック(φ1~3cm)が下層に斑状に堆積。	E	N=22°-W	C7	(1.57)	0.33~0.41	10.3~13.4
SM58 10YR3-4	褐褐色	砂	SD26>SM37>SM48	Ⅲ層ブロック(φ1~3cm)が下層に斑状に堆積。	E	N=18°-W	C8	(1.18)	0.26~0.35	37~9.5
SM59 10YR3-4	褐褐色	砂	SM58, R3>SM59	Ⅲ層ブロック(φ1~3cm)が下層に斑状に堆積。	E	N=6°-W	C8	(3.53)	0.19~0.40	29~5.0
SM62 10YR3-4	褐褐色	砂	SD26>SM62	Ⅲ層ブロック(φ1~2cm)を少量含む。	E	N=7°-W	C7	(2.31)	0.23~0.35	89~14.3

表8-2 小溝状遺構E群 土層註記表 (2)

遺構名	色調	土質	新-旧	備考・混入物	目	角度	グリッド	検出長 (m)	検出幅 (m)	深さ (cm)
SM63	10YR2/3 黒褐色	砂	SK56>SM63	Ⅲ層ブロック (φ1~2cm) を少量化。	E	N-28°-W	C7	(0.84)	0.32	129~175
SM64	10YR2/3 黒褐色	砂	SD26>SM64	Ⅲ層ブロック (φ1~2cm) を少量化。	E	N-6°-W	B9	(1.90)	0.41~0.57	96~224
SM65	10YR3/3 黒褐色	砂		Ⅲ層ブロック (φ1~2cm) を少量化。	E	N-3°-W	C9	0.59	0.24~0.25	60~64
SM66	10YR3/3 黒褐色	砂	SK3>SD14, SM15>SM66	Ⅲ層ブロック (φ1~2cm) を少量化。	E	N-6°-W	C9, D9	(1.88)	0.38~0.59	19~85
SM69	10YR3/4 嫡褐色	砂	SM61>SM69	Ⅲ層ブロック (φ1~2cm) を少量化。	E	N-2°-W	C7	2.17	0.22~0.30	25~155
SM70	10YR3/3 嫡褐色	砂	SM61>SM69> SM70	Ⅲ層ブロック (φ1cm) が下層に斑状に堆積。	E	N-42°-W	C7	(1.76)	0.22~0.31	26~85
SM71	10YR3/3 嫡褐色	砂	SK3, SM13> SM71	Ⅲ層ブロック (φ1cm) を少量化。	E	N-0°-E	C9, D9	(0.91)	0.25~0.48	47~112
SM72	10YR2/3 黒褐色	砂	SD26>SM72	Ⅲ層ブロック (φ1cm) が下層に斑状に堆積。	E	N-5°-E	B8	(1.02)	0.32~0.40	57~134
SM73	10YR3/3 嫡褐色	砂	SD06, 38>SM73	Ⅲ層ブロック (φ1cm) を少量化。	E	N-2°-W	C8	(1.30)	0.28~0.40	28~58
SM77	10YR3/4 嫡褐色	砂	SD26>SM68> SM77	Ⅲ層ブロック (φ1cm) が下層に斑状に堆積。	E	N-0°-E	C7	(1.84)	0.35~0.93	32~173
SM83	10YR3/3 嫡褐色	砂	SD26>SM40> SM83	Ⅲ層ブロック (φ1cm) が下層に斑状に堆積。	E	N-16°-E	C8	(1.17)	0.13~0.32	39
SM84	10YR3/3 嫡褐色	砂	SM36, 73>SM84	Ⅲ層ブロック (φ1cm) を少量化。	E	N-10°-E	C8	(1.30)	(0.19)	30
SM86	10YR3/3 嫡褐色	砂	SM35, 38>SM86	Ⅲ層ブロック (φ1cm) を斑状に含む。	E	N-0°-E	C8	(1.34)	0.25	40~65
SM87	10YR3/3 嫡褐色	砂	SM15>SM87	Ⅲ層ブロック (φ1~3cm) が下層に斑状に堆積。	E	N-22°-W	C9	(1.45)	0.18~0.31	58~94
SM88	10YR3/4 嫡褐色	砂	SD26>SM57> SM88	Ⅲ層ブロック (φ1cm) を斑状に含む。	E	N-34°-E	C7	(0.50)	0.38	22~77
SM89	10YR2/3 黒褐色	砂	SD26>SM48> SM89	Ⅲ層ブロック (φ1cm) を斑状に含む。	E	N-16°-W	C7	(1.06)	0.60	52~99
SM90	10YR3/3 嫡褐色	砂	SD26>SM47> SM90	Ⅲ層ブロック (φ1cm) を斑状に含む。	E	N-25°-W	C7, C8	(1.82)	0.24	35~98
SM95	10YR3/3 嫡褐色	砂	SM34, 35>SM85	Ⅲ層ブロック (φ1~3cm) が下層に斑状に堆積。	E	N-9°-W	C8, C9	(1.42)	0.30	63
SM97	10YR3/3 嫡褐色	砂	SD26>SM36> SM97	Ⅲ層ブロック (φ1~3cm) が下層に斑状に堆積。	E	N-0°-E	C9	(1.80)	0.35~0.46	37~77

小溝状遺構F群

B9~10・C9~10グリッドで検出された東西方向の小溝状遺構である。SM67・68・74・94の4条で構成される。方位はE-6°S~E-5°Nで、上端幅は33~55cm、遺構検出面からの深さは3~10cmである。堆積土は暗褐色の砂で、Ⅲ層ブロックを含む。SD10、11、16溝跡と重複しており、これらよりも古い。

遺物は出土していない。他の遺構との重複関係から近世以前の畑耕作痕であると考えられる。

表9 小溝状遺構F群 土層註記表

遺構名	色調	土質	新-旧	備考・混入物	目	角度	グリッド	検出長 (m)	検出幅 (m)	深さ (cm)
SM67	10YR3/4 嫡褐色	砂	SD11, SM12> SM67	Ⅲ層ブロック (φ1~2cm) を少量化。	F	E-5°-N	C9, C10	(2.56)	0.33~0.45	39~103
SM68	10YR3/4 嫡褐色	砂	SD11>SM68	Ⅲ層ブロック (φ1~2cm) を少量化。	F	E-6°-S	C10	(1.27)	0.38~0.49	35~79
SM74	10YR3/4 嫡褐色	砂	SD11>SM74	Ⅲ層ブロック (φ1cm) を斑状に含む。	F	E-5°-S	C9, C10, D9, D10	(2.48)	0.41~0.60	26~67
SM94	10YR3/3 嫡褐色	砂	SD10, 16>SM94	Ⅲ層ブロック (φ1cm) を斑状に含む。	F	E-0°-S	B9, B10	(2.32)	0.50~0.55	31~56

小溝状遺構G群

B9・C9グリッドで検出された南北方向の小溝状遺構である。SM12・13の2条より構成される。方位はN-0~1°Eで、上端幅は38~68cm、遺構検出面からの深さは4~18cmである。堆積土は暗褐色、褐色の砂質シルトで、Ⅲ層ブロックを斑状に含む。SD26溝跡と、小溝状遺構F群と重複しており、いずれの遺構よりも新しい。

遺物は出土していない。他の遺構との重複関係から、近世以降の畑耕作痕であると考えられる。

表10 小溝状遺構G群 土層註記表

遺構名	色調	土質	新>旧	備考・混入物	目	角度	グリッド	検出長 (m)	検出幅 (m)	深さ (cm)
SM12	10YR3/4 單褐色	砂質シルト		Ⅲ層ブロック（φ1~3cm）を少量含む。	G	N-0°-E	B9, C9	4.22	0.54-0.66	42-18.0
SM13	10YR3/4 單褐色	砂質シルト	SM12>SM13	Ⅲ層ブロック（φ1~3cm）を少量含む。	G	N-1°-E	B9, C9	5.08	0.30-0.64	74-10.9

小溝状遺構H群

C2~9・D6・D7・D9・D10・E9・E10グリッドで検出された東西方向の小溝状遺構である。SM7~9・15・23・38・45・46・60・61・98・111・116~118の15条で構成される。方位はE-20°-N-E30°-Sで、上端幅は12~80cm、遺構検出面からの深さは2~18cmである。SM98の底面からは耕作の痕跡が検出されている。堆積土は黒褐色、暗褐色、褐色の粘土質シルト、砂質シルト、砂で、Ⅲ層ブロックを含む。小溝状遺構F群と重複しており、これよりも新しい。

遺物は出土していない。他の遺構との重複関係から、近世以降の畑耕作痕であると考えられる。

表11 小溝状遺構H群 土層註記表

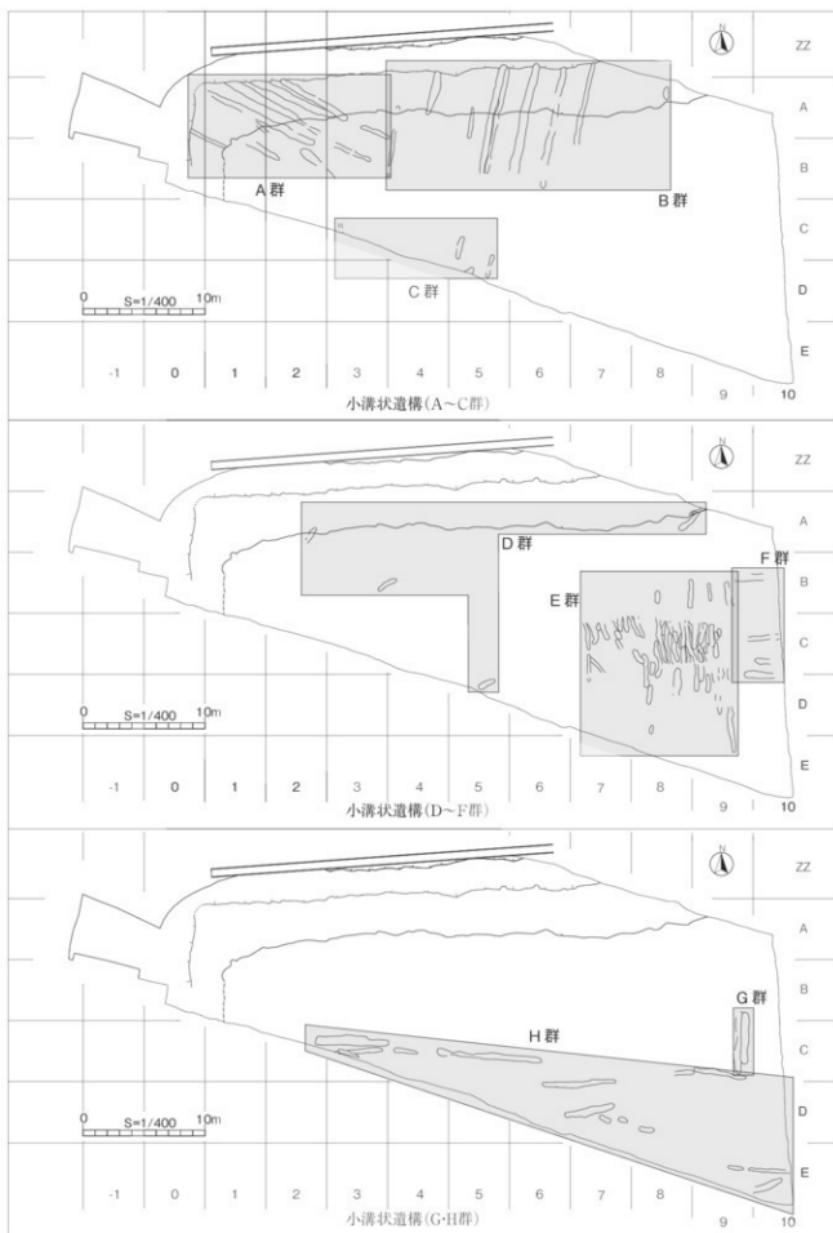
遺構名	色調	土質	新>旧	備考・混入物	目	角度	グリッド	検出長 (m)	検出幅 (m)	深さ (cm)
SM7	10YR2/2 黒褐色	粘土質シルト		Ⅲ層ブロック（φ2~4cm）を少量含む。	H	E-7°-S	E9	1.30	0.25-0.28	26-35
SM8	10YR3/4 單褐色	砂質シルト		Ⅲ層ブロック（φ1~3cm）を少量含む。	H	E-26°-N	E9, E10	(3.25)	0.34-0.55	26-55
SM9	10YR2/2 黒褐色	砂質シルト		Ⅲ層ブロック（φ1~3cm）を少量含む。	H	E-5°-S	E9, E10	(3.34)	0.20-0.33	45-60
SM15	10YR2/3 黒褐色	砂質シルト		Ⅲ層ブロック（φ1~3cm）を少量含む。	H	E-10°-S	C9	4.36	0.25-0.45	73-11.1
SM23	10YR2/3 黒褐色	砂		Ⅲ層ブロック（φ1~3cm）を斑状に含む。	H	E-5°-S	D8	1.25	0.40	115-17.6
SM38	10YR3/2 黒褐色	砂		Ⅲ層ブロック（φ1~2cm）を少量含む。	H	E-4°-N	C8, C9	(1.55)	0.28-0.38	36-52
SM45	10YR3/3 單褐色	砂		Ⅲ層ブロック（φ1~3cm）が下層に斑状に堆積。	H	E-15°-S	D7	0.81	0.20-0.40	97-10.8
SM46	10YR3/3 單褐色	砂		Ⅲ層ブロック（φ1~3cm）が下層に斑状に堆積。	H	E-30°-S	D7	1.01	0.35-0.43	88-13.3
SM49	10YR3/4 單褐色	砂		Ⅲ層ブロック（φ1~3cm）が下層に斑状に堆積。	H	E-12°-N	D6, D7	4.50	0.38-0.69	44-9.9
SM61	10YR3/4 單褐色	砂		Ⅲ層ブロック（φ1~3cm）を少量含む。	H	E-1°-N	D6, C7, D7	6.20	0.27-0.53	27-7.6
SM88	10YR4/4 褐色	砂		Ⅲ層ブロック主体。緑苔あり。	H	E-5°-S	C4-C6	8.60	0.12-0.60	0.8-8.0
SM111	10YR2/3 黒褐色	砂		Ⅲ層ブロック（φ1~5cm）が層状に堆積。下面に耕作跡。	H	E-1°-S	C2-C4	6.00	0.45-0.80	45-17.9
SM116	10YR3/3 單褐色	砂		Ⅲ層ブロック主体。	H	E-19°-S	C3	1.77	0.22-0.33	43-5.7
SM117	10YR3/4 單褐色	砂		Ⅲ層ブロック（φ1~3cm）を斑状に含む。	H	E-17°-S	C4	1.96	0.24-0.37	35-8.0
SM118	10YR3/4 單褐色	砂	SM116>SM118	Ⅲ層ブロック主体。	H	E-3°-N	C3	(3.75)	0.20-0.39	55-8.2

(6) 調査区一括出土遺物

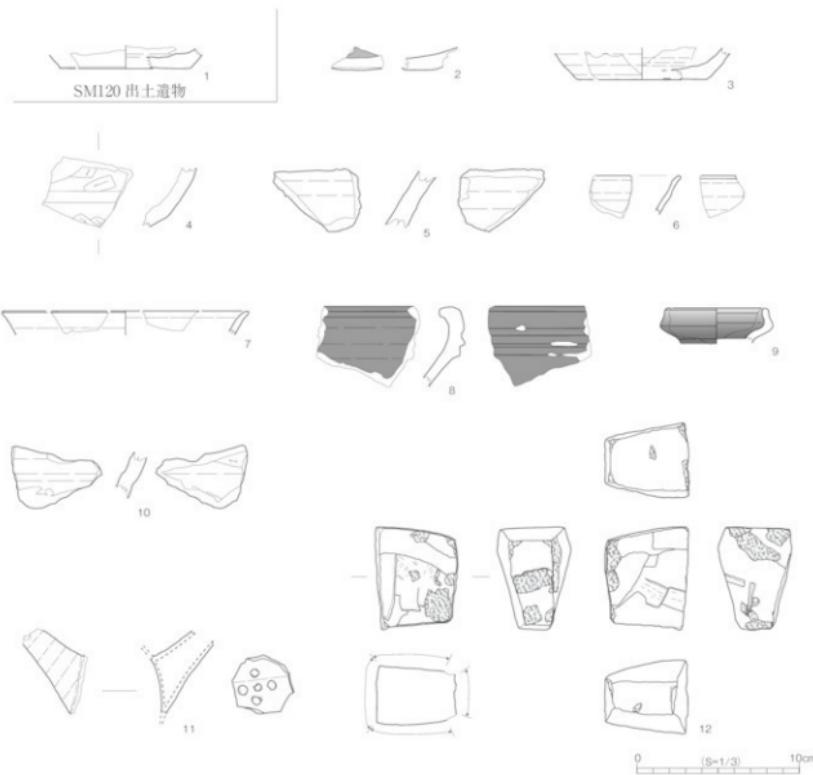
遺構に帰属するもの以外の遺物としては、調査区の西側、土壌に近い範囲を中心に基本層I~Ⅲ層上面から一定数の遺物が出土した。今回はその内の13点を掲載した（第28・29図、写真図版12-11~16）。

土師器の壺C-1（第28図2）は底部付近の破片で、微細資料ではあったが、今回出土した古代の遺物は須恵器が大部分を占める中で唯一国化した土師器である。また須恵器は底部回転ヘラ切り調整の壺E-8（第28図3）や、薄手の壺の口縁部、鉢、甕などが出土している。

中世の遺物は、陶器の鉢の破片I-26（第28図10）が出土している。胎土に白色の鉱物類が混入しており、また赤褐色を呈することから在地産の可能性がある。帰属時期は不明だが、土師質土器の皿（かわらけ）G-5（第28図7）は比較的胎土が均一で、体部は薄手で焼成も良く、色はやや白みを帯びている。



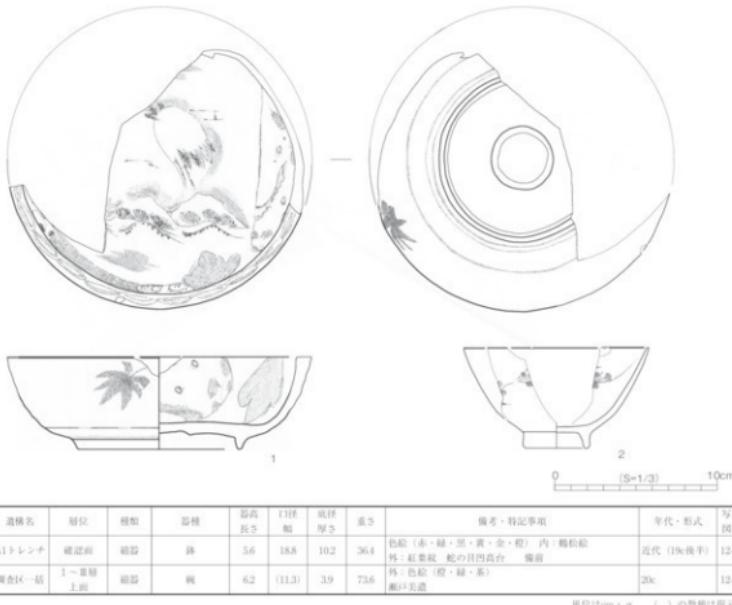
第27図 小溝状遺構群配置図 (S=1/400)



No.	登錄番号	遺構名	層位	種類	器種	器高 長さ	口径 幅	底径 厚さ	蓋さ	備考・特記事項	年代・形式	写真 図版
281	E-7	SM120	I層	灰窓器	环	—	—	(8.0)	11.3	ロクロ 外：ヘラケズリ 底：回転ヘラ切り	古代	
282	C-1	調査区一括	裏層上面	土師器	环	—	—	—	9.2	内：黒色燒成底：ヘラケズリ	古代	
283	E-8	調査区一括	裏層上面	灰窓器	环	—	—	(8.0)	11.8	ロクロ 底：回転ヘラ切り	古代	
284	E-9	調査区一括	裏層上面	灰窓器	环?	—	—	—	29.4	ロクロ 外：ヘラケズリ 内：調離 底：ヘラ切り?	古代	
285	E-10	調査区一括	I～II層	灰窓器	甌	—	—	—	33.3	ロクロ 内：ヘラナギ	古代	
286	E-11	A2レシナ	壁面	灰窓器	环	—	—	—	3.4	ロクロ	古代	
287	G-5	調査区一括	裏層上面	土師質 土器	瓶(かわらけ?)	(15.0)	—	—	2.8	ロクロ	中～近世	
288	I-23	複数	陶器	罐詰	—	—	—	46.6	鉄瓶 鉄広縁带 爪焼?	19c前葉以降	12-12	
289	I-27	調査区一括	裏層上面	陶器	伝瓶器?	(6.0)	—	—	8.5	鉄瓶	近世	12-13
290	I-28	調査区一括	I～Ⅱ層 上面	陶器	瓶	—	—	—	20.5	ロクロ 外：ナゲ 底地不明	中世	
291	I-29	調査区一括	I～Ⅱ層 上面	陶器	土瓶	—	—	—	18.9	注口孔5個 大腹相周 注口面(6個)	19c前～中葉	12-11
292	Kc-8	調査区一括	I～Ⅱ層 上面	石製品	砾石	6.5	5.0	4.5	2000	磨り面(6個)		12-14

単位はcm・g ()の数値は後値

第28図 SM120・調査区一括出土遺物（1）



第29図 調査区一括出土遺物（2）

近世の遺物は、鉄輪の施された擂り鉢の口縁部I-23（第28図8）や大堀相馬の土瓶の注口部I-25（第28図11）等が出土している。また近代の磁器の鉢J-3（第29図1）は、内面に鶴松絵が描かれており、塗金も用いられている。

今回調査区の遺構以外から出土した資料の時期は、古代から中世、近世、近現代であり、これは各遺構から出土した資料の時期ともおおよそ合致する。

第3章 総括

今回の発掘調査では、土塁や堀跡、溝跡、土坑、ピット（小柱穴）など、合計で243基の遺構が発見された。また遺物も、弥生土器、土師器、須恵器、中・近世陶磁器、石製品（砥石等）などが出土したことから、遺跡はこれまで認識されていたよりも、幅広い時期にわたり利用されていたことが判明した。しかし大部分の遺構は出土遺物に乏しく、遺構検出面も基本層第Ⅲ層のみで、重層的な遺構検出ではなかったことから、それぞれの遺構の年代を単独で比定することは難しい。よって今回は各遺構の重複関係と、一部の遺構の堆積土中に含まれる灰白色火山灰などを指標とし、遺構のおおよその年代と、各遺構の関係について整理しつつ、調査区全体から出土した遺物の年代ともあわせて各遺構の年代について検討を行う。また試掘調査の際発見された一部の遺構との関係についても検討を行う。

第1節 検出遺構と出土遺物

今回の調査で見つかった遺構でもっとも古い時期の遺物は、SD26溝跡から出土した弥生土器B-I（第19図5）である。発見されたのは底部から体部にかけての破片で、体部には直径1mmほどの細かな繩文が施され、底部には木葉痕と思われる痕跡が存在する。胎土中には白色透明ガラス質の鉱物粒や、黒色の鉱物粒が多く混入する。SD26が他の出土遺物の年代から17世紀中～後葉に比定されることから、他所から混入した遺物であると考えられる。他の弥生時代の遺物は、破片資料でも発見することはできず、また当該期に比定される遺構も検出されなかつた。

古代と推定される遺構、もしくは可能性がある遺構は、小溝状遺構A～D群とSKI8・75・79・92・102・126・135・136土坑である（第30図）。土坑のうちSKI8・79・102・126の堆積土の上層に灰白色火山灰が堆積した層が確認されたことから、10世紀初頭には埋没した遺構であると考えられる。またこれらの土坑と重複し、より古い時期の土坑も、ほぼ同時期かそれよりも遅い時期の遺構であると考えられる。小溝状遺構A・B群は、重複関係から上記の土坑の大部分よりも古いことが確認された遺構である。SKI135は小溝状遺構B群よりも古いことが確認された。小溝状遺構A群のうちSM124は他の遺構よりも古く、また基本層第Ⅲb層を若干掘り下げたところで検出されたことから、基本層第Ⅲa層に伴う掘り込みである可能性がある。また小溝状遺構C群はB群と方位がほぼ一致することから、同一の遺構であるものと考えられる。重複関係から、小溝状遺構D群はB・C群より新しいことが確認されている。

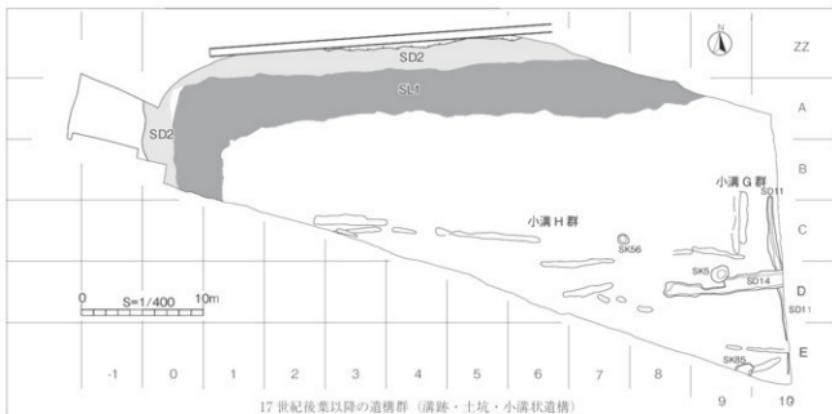
当該期の出土遺物は土師器および須恵器で、確認された器種は、土師器は内面黒色処理された壺、須恵器は壺、瓶類、壺、捏鉢などである（第33図）。これらのうち時期が比定可能なのは須恵器の壺で、ヘラ切り調整が施され、比較的底面が厚い8世紀代のものと、口縁部のみの資料だが比較的薄手で、やや外反する9世紀後半以降のものが存在する。小溝状遺構D群に所属するSM120小溝状遺構からは、8世紀代と考えられる須恵器の壺の底部E-7（第28図1）が出土していることから、SM120は8世紀代以降の年代であると考えられる。

古代に比定される小溝状遺構が一定数検出されたことから、古代においては壺として利用されていたものと考えられる。またそれらと同時期の遺物が一定量出土したことは、当該地周辺に集落などの存在も予想される。

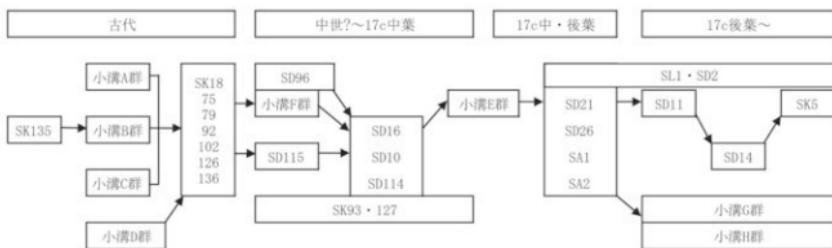
今回調査区内の各遺構および調査区一括資料として、中世の遺物も一定数出土している。出土したのは、常滑、渥美、在地産の壺、もしくは壺などの大形の器種と龍泉窯系の青磁連弁紋碗である（第33図）。この内SD26溝跡から出土した渥美的壺I-16（第19図6）は、内・外面および割れ口を含め、4面が砥石にて再利用されている。出土



第30図 各時期の遺構変遷図1 (S=1/400)



第31図 各時期の遺構変遷図2 (S=1/400)



第32図 検出遺構変遷模式図

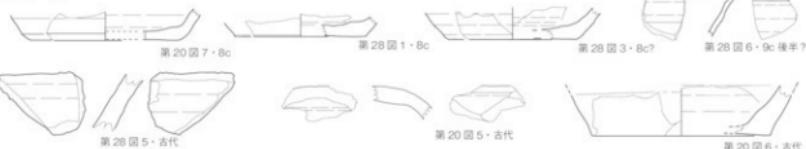
遺物の内、年代が判明する物は、おおよそ12世紀後半から14世紀前半までの時期に収まる。

また今回発見された溝跡と小溝の中には、後述するSL1土塁とSD26溝跡よりも明らかに古い遺構が含まれている。両者は17世紀中葉～後葉の時期に構築されたと考えられる遺構であることから、それ以前の遺構であると考えられる。またSL1よりも古く、古代の土坑とは堆積量が異なり、黒色、もしくは黒褐色のシルト等で構成される一部の土坑についても当該期と同時期の可能性がある。この時期に該当する遺構、もしくは可能性がある遺構は、区画溝跡と考えられるSD10・16・96・114・115溝跡と、SK93・127土坑、小溝状道構E・F群である。これらの遺構と出土遺物の存在は、和田氏が蒲生に入部する以前にこの地域が何らかの形で利用されていた可能性を示唆するものであるといえる。

また調査区内からは土師質土器の皿（かわらけ）が若干ながらも出土している（第33図）。いずれもロクロ成形によるものである。これらのうちSD21溝跡から出土したG4（第19図3）は、左回転の底部回転糸切り調整で、胎土も比較的緻密で内外面とも橙色を呈する。外面は底部からやや急に立ち上がった後に緩やかに立ち上がり、体部を形成している。内面は底部から体部が立ち上がる境に浅い凹みが見込状に巡る。また体部と底部の厚さには差がある。この資料についても具体的な年代を付加することはできないが、SD21溝跡が17世紀中葉～後葉の頃の遺構であると考えられることから、その頃か、それ以前の時期に比定されるものと思われる。

近世の17世紀中葉～後葉に比定される遺構は、SL1土塁、SD2掘跡、SD21・26・107溝跡、SA1・2柱列などである。SL1とSD2からの出土遺物は、古代から近世にまでわたるが、構築された年代は、SD2の第3層からは近世以降の

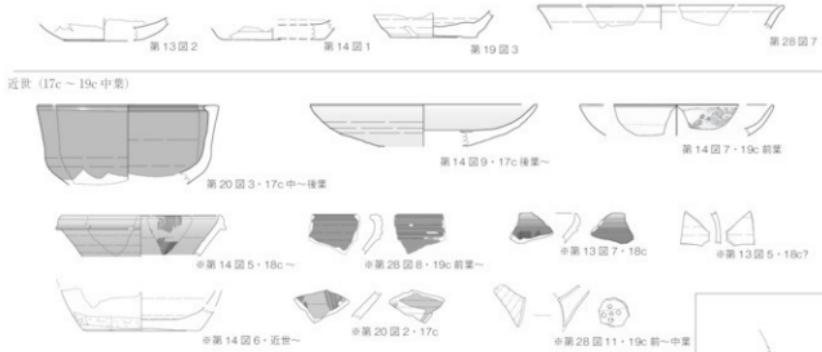
古代 (8 ~ 9c)



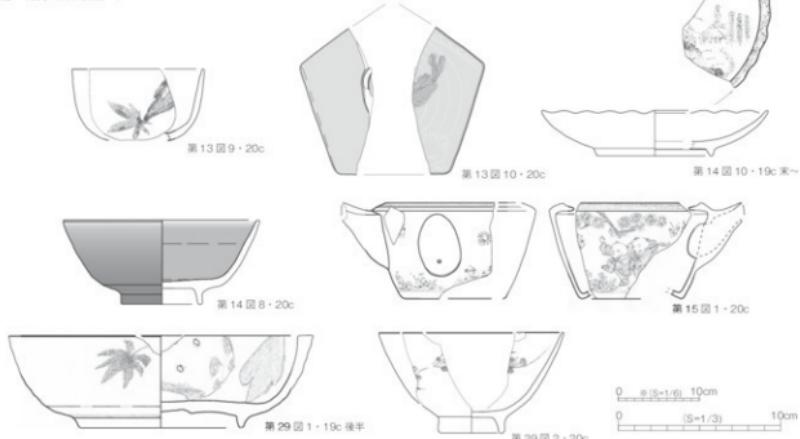
中世 (12c ~)



かわらけ (中世~近世)



近・現代 (19c後葉~)



第33図 各時期出土遺物

陶器の壺I-15（第14図6）が出土しており、SD2が埋没したその上層からは18～20世紀代の遺物が出土していることから、SL1とSD2が構築されたのは18世紀以前であると考えられる。さらには出土した近世の遺物の中で最も古い時期のものが17世紀後葉以降の肥前の見込蛇の目釉ハギの皿J-8（第14図9）であることから、SL1とSD2は遅くとも17世紀後葉には構築されていたものと推定される。

区画溝跡であるSD26からは、岸窯系の鉄軸二重掛がなされた鉢I-19（第20図3）が出土している。年代は17世紀中～後葉である。またこれ以外にも岸窯系の鉄軸描鉢I-16（第20図2）が出土しており、時期は17世紀代と考えられる。これらの遺物とSL1、SD2の推定構築時期が同時期であること、またSD26とSL1、SD2、SD21、SA1・2は方位がほぼ一致することから、これらの構築はほぼ同時期に構築されたものと考えられる。しかしSD21とSD26からはそれより後の時代の遺物はまったく出土していないことから、比較的早い段階で埋没したものと考えられる。

これらの遺構が形成されたと考えられる17世紀中～後葉の時期は、和田氏が蒲生村に「在所」として知行地を拝領した延宝元年（1673）ともほぼ一致することから、これらの遺構の形成に和田氏が深く関わっていたことを示唆するものである。

17世紀後葉以降に比定される遺構としては、区画溝跡であるSD11・14溝跡とSK5・56・85土坑があげられる。またSL1土堀とSD2堀跡も当該期にも機能していたものと推測される。遺物は大部分がSL1とSD2からの出土で、特にSD2は溝本体が埋没した後もその上層に遺物を投棄した様子が窺える。遺物の大部分は陶磁器である。時期は18世紀から20世紀にわたるまではほぼ満遍なく出土しており、遺物の出土量はもっとも多い。区画溝跡であるSD11は現在の地境に並行する形で検出されており、現代の区割りが当該期にまでさかのほる可能性がある。

第2節　まとめ

前述したように、今回の調査では和田織部館跡西側の土堀と堀跡などを中心に調査を行い、土堀や堀跡などは17世紀中～後葉頃の年代を導き出すことができた。この年代は和田氏が当地を「在所」として拝領し、入部した年代とほぼ重なり合うことから、現在も残る土堀などはその際に構築されたものであると考えられる。またSD2堀跡の延長と考えられる遺構は、平成25年度の試掘・確認調査のB-11区からも検出されている（第7・34図）。堀跡は現在の字境ともほぼ重なり、遺跡の北側と西側に巡ることが予想されてきていたが、今回の発掘調査でその存在を裏付けることができた。この堀跡がどこまで伸びるかなどについてはいまだ不明な点が多く、これについては今後の周辺の調査を待したい。

SL1土堀に関しては調査区の北側から、遺跡の西側にかけて残存することが知られていたが、今回遺跡内の詳細な地形測量を行ったところ、さらに東側に通称「西小路」と接する道路付近まで、現在の住宅地により途切れてしまっているものの、地形の高まりがわずかながらも確認したことから、土堀がこの部分まで延長していたことが今回新たに判明した（第34図・別添図）。この部分は現在も道路が屈曲した形で残っており「枡形虎口」が存在していた可能性が指摘されている（仙台市史編さん委員会2006）。

また今回の調査ではSL1土堀よりも古い区画溝や土坑などの遺構が確認されたことも大きな成果であるといえる。これらの遺構については遺物から年代を窺うことはできなかったが、SL1よりも古いことから中世から17世紀中葉以前の遺構群であると考えられる。

当地周辺は、和田氏の居屋敷とともに、北小路、東小路、南小路、西小路、中小路と呼ばれる道路が存在し、この中をさらに細かく区割りして和田氏家臣の家中屋敷が配されていたとされているが、これは現況の地境などからもその様子を窺うことができる。この家臣の方の家の伝承を今回の調査の際に地元の方から窺うことができたが、家によっては今から270年以上前や、350年以上前から続き、和田氏が当地に入部する以前や、伊達政宗が仙台を築



第34図 蒲生在所概要図（「仙台市史 特別編7 城館」を一部改変・加筆）

く前から存続している家もあると言われる内容が含まれていた。今回発見された土塁や堀跡よりも古い遺構群は、それらの伝承を裏付ける可能性もあるが、遺構の確かな年代を導き出すことができなかつたため、そのような伝承が存在することを指摘するにとどめておきたい。

平成23年3月11日の東日本大震災による甚大な津波被害をうけて、仙台市では本地区を災害危険区域に指定し、住宅については防災集団移転促進事業を進めており、今後当地区の様相は大きく変貌を遂げることが予想される。今回の調査成果が変容していく当地区の歴史研究の一助になれば幸いである。

〈引用・参考文献〉

- 愛知県史編さん委員会 2012 「愛知県史 別編窯業3 中世・近世 常滑系」
- 仙台市教育委員会 1988 『東光寺遺跡』 仙台市文化財調査報告書第112集
- 仙台市教育委員会 2000 『沼向遺跡第1～3次調査』 仙台市文化財調査報告書第241集
- 仙台市教育委員会 2002 『今市遺跡発掘調査報告書』 仙台市文化財調査報告書第260集
- 仙台市教育委員会 2004 『鴻ノ巣遺跡第7次発掘調査報告書』 仙台市文化財調査報告書第280集
- 仙台市教育委員会 2005 『洞ノ口遺跡第1次・2次・4次・5次・7次・10次発掘調査報告書』 仙台市文化財調査報告書第281集
- 仙台市教育委員会 2009 『沼向遺跡第35次調査』 仙台市文化財調査報告書第337集
- 仙台市教育委員会 2010 『貞山堀調査報告書』 仙台市文化財調査報告書第357集
- 仙台市教育委員会 2010 『沼向遺跡第4～34次調査』 仙台市文化財調査報告書第360集
- 仙台市教育委員会 2010 『中野高柳遺跡第1～5次調査』 仙台市文化財調査報告書第361集
- 仙台市教育委員会 2010 『若林城跡第8・9次発掘調査報告書』 仙台市文化財調査報告書第377集
- 仙台市史編さん委員会 2001 『仙台市史 通史編3 近世1』
- 仙台市史編さん委員会 2006 『仙台市史 特別編7 城館』
- 仙台市史編さん委員会 2014 『仙台市史 特別編9 地域史』
- 多賀城市教育委員会 2014 『八幡沖遺跡 第7次調査』 『平成26年度 宮城県遺跡調査成果発表会 発表要旨』
- 東北大学埋蔵文化財調査研究センター 2000 『東北大学埋蔵文化財調査年報13』
- 東北歴史資料館 1995 『仙台・堤のやきもの』
- 宮城県教育委員会 2003 『中野高柳遺跡Ⅰ』 宮城県文化財調査報告書第194集
- 宮城県教育委員会 2004 『中野高柳遺跡Ⅱ』 宮城県文化財調査報告書第197集
- 宮城県教育委員会 2005 『中野高柳遺跡Ⅲ』 宮城県文化財調査報告書第201集
- 宮城県教育委員会 2006 『中野高柳遺跡Ⅳ』 宮城県文化財調査報告書第206集

第12表 試掘・確認調査遺物集計表

遺構名	土器		灰窓器		土加質土器		陶器		磁器		石製品		鉄製品		不明		その他		合計		
	数量	重量	数量	重量	数量	重量	数量	重量	数量	重量	数量	重量	数量	重量	数量	重量	数量	重量	数量	重量	
A2調査C-延	g	1	5 g		g	1	64.6 g		g	1	90 g		g		g		g	3	1591 g		
A4調査C-延	g		g		g	6	31.6 g	2	11.6 g		g	1	47.2 g		g	1	5.9 g	10	963 g		
A5調査区-延	g		g		g	3	6.6 g	1	0.7 g		g	1	9.4 g		g	1	1.6 g	6	183 g		
B2 SD1	g		g	1	21 g		g	1	124 g		g		g		g		g	2	145 g		
B4 SD1	g		g		g	1	92.2 g		g		g		g		g		g	1	912 g		
B4調査C-延	g		g		g	1	0.6 g	1	9.2 g		g		g		g		g	2	98 g		
B7 上層	g		g	2	103 g	11	230.6 g	3	14 g	1	99.8 g	1	16.5 g		g	1	4.7 g	19	3759 g		
B7 下層	g		g	2	12.5 g	6	104.0 g	2	2.2 g		g	1	3.6 g		g	2	31.5 g	13	1738 g		
表探	g		g		g	1	5.7 g		g		g		g		g		g	1	5.7 g		
合計	0	0 g	1	5 g	5	249 g	30	534.9 g	10	50.1 g	2	189.8 g	4	76.7 g	0	0 g	5	637 g	37	9451 g	

第13表 本発掘調査遺物集計表

遺構名	土器		灰窓器		土加質土器		陶器		磁器		石製品		鉄製品		不明		その他		合計		
	数量	重量	数量	重量	数量	重量	数量	重量	数量	重量	数量	重量	数量	重量	数量	重量	数量	重量	数量	重量	
SL1	5	1097 g	7	1282 g	2	85 g	4	146 g	12	404.2 g	2	158.2 g	5	81.1 g		g	4	416.2 g	41	14321 g	
SD2	2	69 g	2	42 g		g	3	1052.4 g	11	293.7 g	1	520.2 g	12	267.8 g		g	30	8202 g	61	30032 g	
SK3		g	1	143 g		g		g		g		g		g		g		g	1	143 g	
SK5		g		g		g		g		g		g		g		g	1	83.4 g	1	83.4 g	
SD21		g	3	28.2 g	1	17.6 g		g		g	1	100 g	1	8.8 g		g		g	6	1546 g	
SD26	1	21.5 g	1	12.5 g		g	4	83.6 g		g	3	501.8 g		g		g		g	9	821.9 g	
SD96		g	1	16.4 g		g		g		g		g		g		g		g	1	16.4 g	
SD114		g	1	42.7 g		g		g		g	2	390.5 g		g	1	1.3 g		g	4	410.3 g	
SD115		g	1	14.2 g		g		g		g	2	395 g		g		g		g	3	409.2 g	
SD116		g	1	1.6 g		g		g		g		g		g		g		g	1	1.6 g	
SM120		g	1	11.3 g		g		g		g		g		g		g		g	1	11.3 g	
調査C-延	9	451 g	8	589 g	3	10.1 g	11	201.6 g	5	137.1 g	2	745 g		g		g	4	283 g	42	12261 g	
合計	17	1832 g	27	4828 g	6	362 g	22	1483.6 g	28	835 g	13	2876.5 g	18	257.7 g	1	1.3 g	39	13481 g	171	76044 g	



1. 1961年の道路周辺の航空写真



2. 1977年の道路周辺の航空写真

写真図版3 調査地点周辺航空写真



1. SL1土壌検出状況（南東から）



2. SL1土壌西側（北から）



3. SL1土壌北側（西から）

写真図版4 SL1土壌検出状況



1. 調査区東壁土層断面（西から）



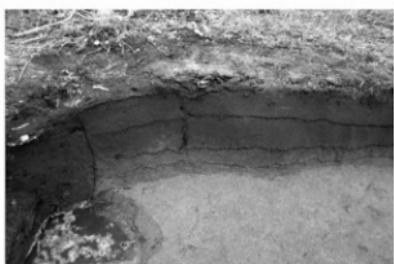
2. 調査区東壁土層断面（西から）



3. 調査区東壁土層断面（西から）



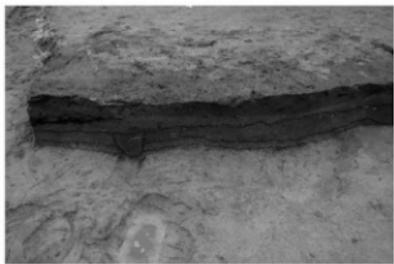
4. 調査区東壁土層断面（南西から）



5. 調査区南壁土層断面（北から）



6. 調査区南壁土層断面（北から）



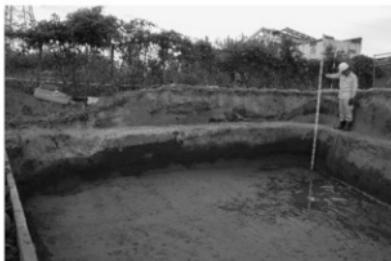
7. 調査区南壁土層断面（北から）



8. 調査区南壁西側土層断面（北から）



1. 土壌北側地区遭構棲出状況（東から）



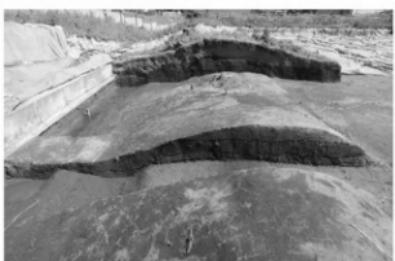
2. 土壌北側地区西壁土層断面（東から）



3. 土壌西侧地区遭構棲出状況（東から）



4. 土壌西侧地区南壁土層断面（北から）



5. 土壌第1・2トレンチ土層断面（西から）



6. 土壌第3トレンチ土層断面（西から）



7. 土壌2トレンチ東壁土層断面（西から）

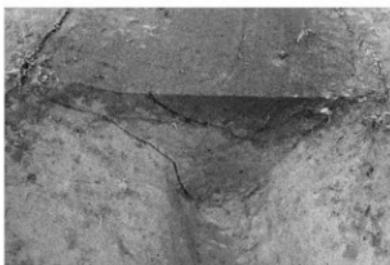


8. 土壌第5トレンチ北壁断面（南から）

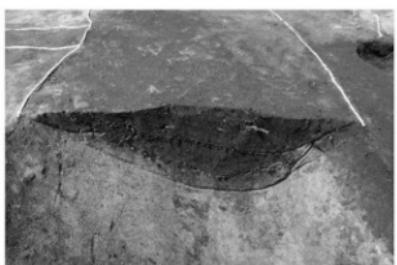
写真図版6 土壌北・西侧地区・SL1土壌土層断面



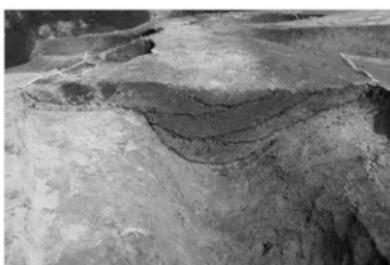
1. SD10土層断面 (SPA・北から)



2. SD11土層断面 (SPB・南から)



3. SD16土層断面 (SPE・東から)



4. SD21土層断面 (SPF・西から)



5. SD21土層断面 (SPA・北から)



6. SD26・114・115土層断面 (SPE・東から)



7. SD26土層断面 (SPH・西から)



8. SD16土層断面 (SPC・南から)

写真図版 7 溝跡土層断面 (1)



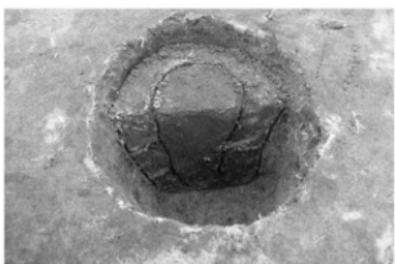
1. SD96土層断面 (SPJ・西から)



2. SD114土層断面 (SPJ・西から)



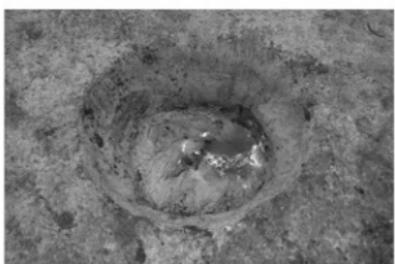
3. SD115土層断面 (SPJ・西から)



4. P1土層断面 (南から)



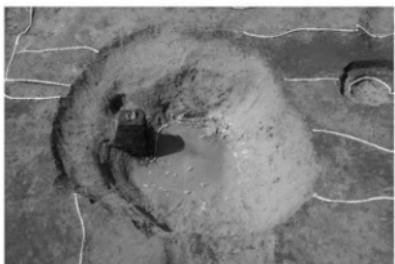
5. SK17土層断面 (西から)



6. SK17完掘状況 (北から)

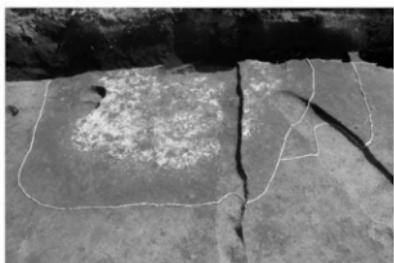


7. SK5土層断面 (南から)

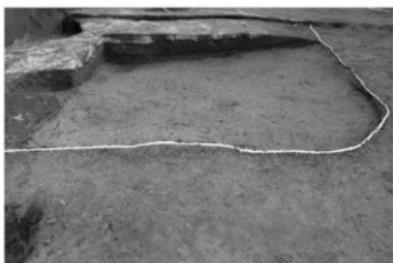


8. SK5完掘・遺物出土状況 (東から)

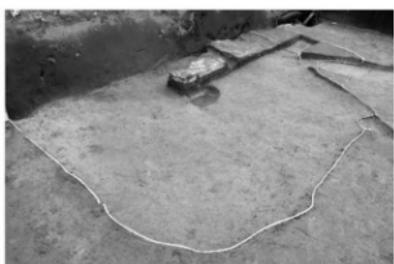
写真図版8 溝跡土層断面 (2)・ピット・土坑土層断面 (1)・遺物出土状況



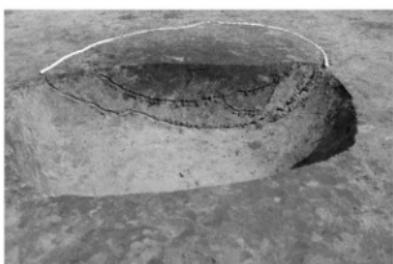
1. SK18検出状況（西から）



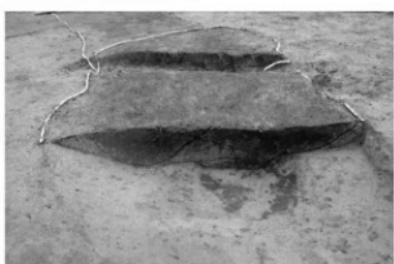
2. SK18土層断面（北から）



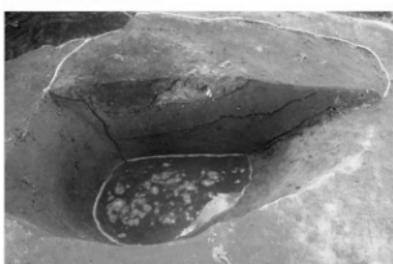
3. SK18・75土層断面（北西から）



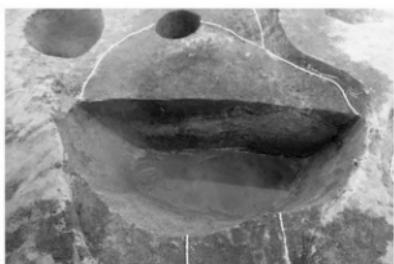
4. SK56土層断面（西から）



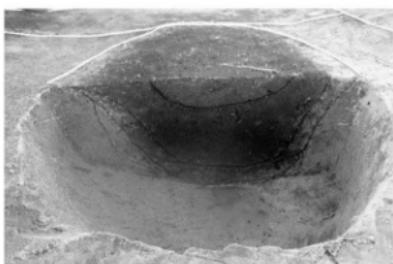
5. SK76土層断面（北から）



6. SK79土層断面（東から）



7. SK92土層断面（南から）

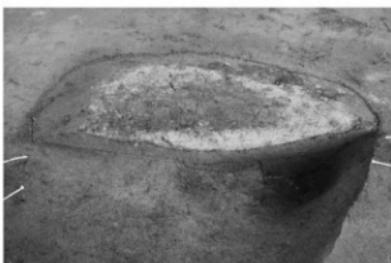


8. SK93土層断面（東から）

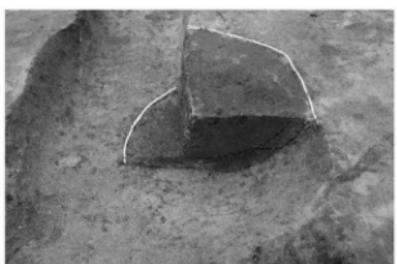
写真図版9 土坑土層断面（2）・検出状況（1）



1. SK102検出状況（南から）



2. SK102土層断面（西から）



3. SK103土層断面（東から）



4. SK126土層断面（西から）



5. SK127土層断面（西から）



6. SK136土層断面（南から）

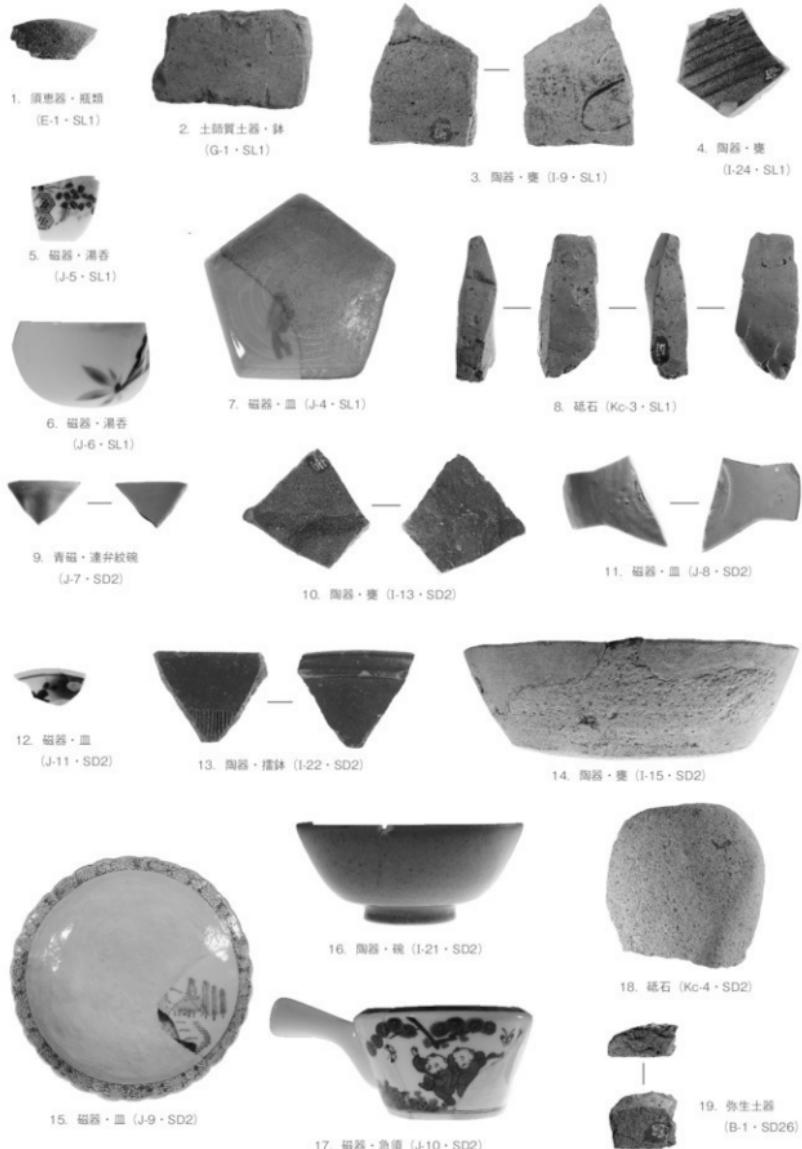


7. 挖削作業状況（西から）

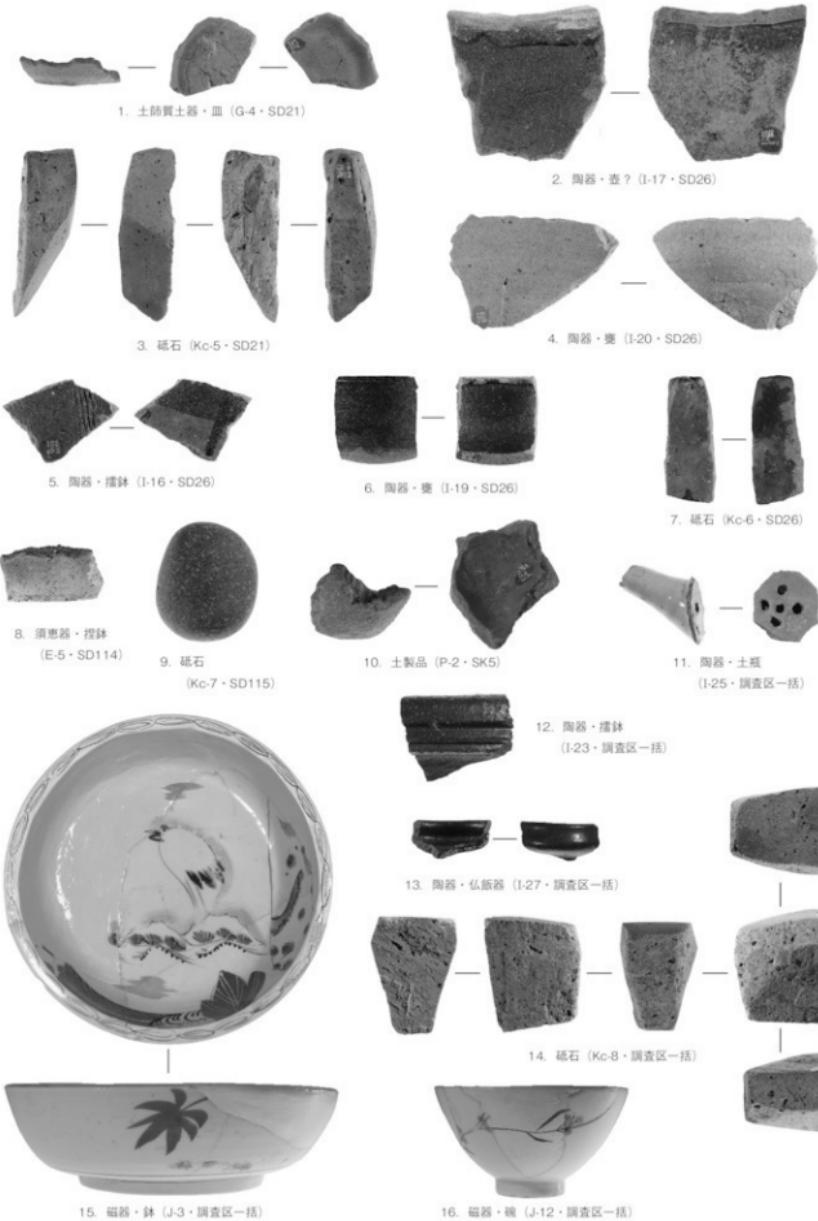


8. 作業状況（西から）

写真図版10 土坑土層断面（3）・検出状況（2）・調査区内作業状況



写真図版11 調査区内出土遺物 (1)



写真図版12 調査区内出土遺物 (2)

報告書抄録

ふりがな	わだおりべたてあと						
書名	和田織部館跡						
副書名	平成26年度蒲生北部地区被災市街地土地区画整理事業関係遺跡発掘調査報告書						
巻次	一						
シリーズ名	仙台市文化財調査報告書						
シリーズ番号	第439集						
編著者名	長島栄一、及川謙作、石山智之						
編集機関	仙台市教育委員会（文化財課）						
所在地	〒980-0811 宮城県仙台市青葉区一番町4-1-25-3F TEL 022 (214) 8893						
発行年月日	2015年3月31日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因
和田織部館跡	宮城県仙台市 みやぎの くらもと 宮城野区蒲生	04100 01229	38° 59' 42"	140° 15° 30"	2014.7.28~2014.11.7	1,227m ²	土地区画整理事業に伴う事前調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項	
和田織部館跡	城館跡	古代～近世	土塁、堀跡、 区画溝、 小溝状遺構群、 土坑	弥生土器、土師器、須恵器、 土師質土器、陶器、磁器、 石製品、土製品、 銅製品	<p>古代は小溝状遺構群と土坑が見つかったことから、生産域として利用されていたものと思われる。 明確に特定される遺構は発見されなかつたが、中世の遺物が一定量出土したことから、遺構の一部は中世の時期である可能性がある。</p> <p>近世に土塁や堀跡、区画溝などが築かれ、区画溝の一部は土塁と並行していることが確認され、数多くの遺物が出土した。</p>		

仙台市文化財調査報告書第439集

和田織部館跡

— 平成26年度蒲生北部地区被災市街地
土地区画整理事業関係遺跡発掘調査報告書 —

2015年3月

発行 仙 台 市 教 育 委 員 会

仙台市青葉区一番町四丁目1-25

東二番丁スクエア3F

文化財課 TEL 022 (214) 8893

印刷 株式会社 東 北 プ リ ン ト

仙台市青葉区立町24-24

TEL 022 (263) 1166
